

SOCCER TOCHIGI COMMUNICATION MAGAZINE

SOCCER TOCHIGI

(公社) 栃木県サッカー協会事務局

〒320-0857 宇都宮市鶴田2-2-10 鈴運メンテック(株)ビル2F

TEL 028-688-8411 / FAX 028-688-8400

URL <http://www.tfa.or.jp/>



vol.102

2023年3月22日発行



いちごいちえ会とちぎ国体

第77回 国民体育大会 夢を感動へ。感動を未来へ。2022



①成年男子 1回戦 ②成年男子 準決勝 ③少年男子 1回戦 ④少年男子 2回戦 ⑤少年女子 1回戦 ⑥少年女子準決勝

写真提供/下野新聞社

「SOCCER TOCHIGI」

vol.102 号からデジタルブック化
県協会ホームページにて公開

FAIR PLAY PLEASE  フェアプレイを心がけましょう



contents

事務局より

2022年度公益社団法人栃木県サッカー協会 各種表彰受賞者	3
ミッションファイル	5
2023年度アクションプラン	6
本県開催（県協会主管）皇后杯JFA第44回全日本女子サッカー選手権大会	16

栃木サッカークラブ

2023シーズン	17
----------	----

第1種委員会・社会人連盟

とちぎ国体を振り返って	17
2023シーズンも前へ（栃木シティフットボールクラブ）	19
更なる前進を目指して（ヴェルフェ矢板）	19
作新学院大学サッカー部今年度目標	20
今年度を振り返って・来年に向けて（作大FC）	21

第2種委員会・高校連盟

高校連盟より	21
令和4年度第101回全国高校サッカー選手権大会に出場して	22
令和4年度栃木県高等学校サッカー新人大会 結果	24
栃木県U-18女子サッカーリーグ開幕	25
定通部サッカー2022年を振り返って	26
令和4年度第61回栃木県高等学校定時制通信制体育大会サッカー競技 結果	26
令和4年度全国高等学校定時制通信制体育大会第32回サッカー大会	27
令和4年度第37回関東地区高等学校定時制通信制サッカー大会	27

第4種委員会・少年連盟

第51回栃木県U-10サッカー選手権大会	28
JFA第46回全日本U-12サッカー選手権大会栃木県大会	28
第40回栃木県U-11サッカー選手権大会 JA全農杯のU-11大会の部	29
第51回栃木県U-12少年サッカー選手権大会	31

女子委員会・連盟

U-15足利地区の取り組みについて	32
公式戦出場目指して始動・白鷗大に女子サッカー愛好会	34

クラブユース連盟

クラブユースサッカー連盟より	35
2022年度大会結果	35

シニア委員会・連盟

JFA 第23回全日本O-60サッカー大会関東地区予選会	36
JFA 第17回全日本O-70サッカー大会関東地区予選会	36
KTFA 第16回関東O-50サッカー大会	36
KTFA 第16回関東O-40サッカー大会	36

技術強化委員会

第77回いちご一会栃木国体を終えて	37
いちご一会とちぎ国体活動報告	38
JFAキッズエリート事業	40

フットサル委員会・連盟

フットサルの普及振興に貢献・宮川進委員長が勇退	41
8年ぶり本県チームが昇格・ブラジニアが関東女子リーグへ	41

審判委員会

RAJー日本サッカー審判協会の紹介ー	42
「チャレンジ」～U20審判員研修に参加して～	43
栃木に移籍してきた	44
2級審判員を目指し	44

グラスルーツ委員会

グラスルーツ委員長挨拶	45
2022年度グラスルーツ委員会女子普及活動関連	46
JFA女子サッカーデー	47

賛助会員・協賛

2022年度賛助会員ご芳名	48
記録広報委員会のお知らせ	48

2022年度 公益社団法人栃木県サッカー協会 各種表彰受賞者

1. 2022年度（第50回） 太郎賞受賞者

4 種	多田光希	ヴェルフェ矢板U-12
	富貴塚琉央	ともぞうサッカークラブ
	寄川惺多	栃木サッカークラブU-12
	猪瀬るい	FCがむしゃら
	三橋昊生	栃木サッカークラブU-12
	大久保藍奈	JFCアミスタ市貝
	吉成礼	ともぞうサッカークラブ
3 種	荒川琉人	FC VALON ジュニアユース
	高松大悟	栃木サッカークラブU-15
	阿久津天斗	高根沢町立阿久津中学校サッカー部
2 種	田邊海斗	矢板中央高等学校サッカー部
	増田吏玖	宇都宮短期大学附属高等学校
	大久保昇真	佐野日本大学高等学校サッカー部
女子	岩城恋音美	栃木サッカークラブ レディース
	佐藤愛真	栃木サッカークラブ レディース

2. 2022年度（第35回） 森山賞受賞者

堀田利明	第77回国民体育大会栃木県成年男子チーム 監督/第77回国民体育大会 成年男子の部 第5位
只木章広	第77回国民体育大会栃木県少年男子チーム 監督/第77回国民体育大会 少年男子の部 第5位
久保田圭一	第77回国民体育大会栃木県少年女子チーム 監督/第77回国民体育大会 少年女子の部 第5位
梁木直人	第22回全国障害者スポーツ大会栃木県チーム 監督/第22回全国障害者スポーツ大会 準優勝
今矢直城	栃木シティフットボールクラブ 監督/第56回関東サッカーリーグ1部 第1位 第58回全国社会人サッカー選手権大会 ベスト8/全国地域チャンピオンズリーグ2022 第3位
原雅典	FCオー・ド・イス 監督/第29回全国クラブチームサッカー選手権大会関東大会 準優勝
上野哲	小山工業高等専門学校サッカー部 監督 令和4年度関東信越地区高等専門学校体育大会関東ブロックサッカー競技兼第51回関東高等専門学校サッカー選手権大会全国大会予選 準優勝
横浜誠	作新学院大学サッカー部 監督/第55回関東大学サッカー大会 グループA第2位
杉本真	作大FC 監督/第56回関東社会人サッカー大会 第3位
高橋健二	矢板中央高等学校サッカー部 監督/令和4年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会 ベスト8
岩崎陸	宇都宮短期大学附属高等学校 監督/令和4年度第65回関東高等学校サッカー大会 第3位
海老沼秀樹	佐野日本大学高等学校サッカー部 監督/第101回全国高等学校サッカー選手権大会 ベスト8
鄭秀哲	FC VALON 監督/2022JA全農杯全国小学生選抜サッカー大会IN関東 ベスト4
鈴木秀明	宇都宮文星女子高等学校サッカー部 監督/令和4年度第11回関東高校女子サッカー大会 第4位
久保田圭一	栃木サッカークラブレディース 監督/JFA U-15女子サッカーリーグ2022関東 第3位

篠崎 明	とち丸シニアサッカークラブ	監督/KTFA第17回関東O-60サッカー大会 準優勝
白井 幸男	栃木大昭サッカークラブ	監督/KTFA第10回関東O-70サッカー大会 準優勝
窪堀 宏一	栃木シティフットサルクラブ	監督/JFA第28回全日本フットサル選手権大会関東大会 第4位
石川 天夢	F.C.majikao	監督/第18回全日本大学フットサル大会関東大会 第4位
磯 裕章	ISOSOCCERCLUB	監督/第1回関東ビーチサッカーリーグ2部2022 優勝
福島 史尊	栃木県女子選抜チーム	監督/日本トリムPresents第14回全国女子選抜フットサル大会関東大会 準優勝

3. 2022年度（第40回） 協会長賞受賞者

【団体】

栃木シティフットボールクラブ	第56回関東サッカーリーグ1部 第1位/第58回全国社会人サッカー選手権大会 ベスト8 全国地域チャンピオンズリーグ2022 第3位
FCオー・ドイス	第29回全国クラブチームサッカー選手権大会関東大会 準優勝
小山工業高等専門学校サッカー部	令和4年度関東信越地区高等専門学校体育大会関東ブロックサッカー競技兼 第51回関東高等専門学校サッカー選手権大会全国大会予選 準優勝
作新学院大学サッカー部	第55回関東大学サッカー大会 グループA第2位
作大FC	第56回関東社会人サッカー大会 第3位
矢板中央高等学校サッカー部	令和4年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会 ベスト8
宇都宮短期大学附属高等学校	令和4年度第65回関東高等学校サッカー大会 第3位
佐野日本大学高等学校サッカー部	第101回全国高等学校サッカー選手権大会 ベスト8
FC VALON	2022JA全農杯全国小学生選抜サッカー大会IN関東 ベスト4
宇都宮文星女子高等学校サッカー部	令和4年度第11回関東高校女子サッカー大会 第4位
栃木サッカークラブ レディース	JFA U-15女子サッカーリーグ2022関東 第3位
とち丸シニアサッカークラブ	KTFA第17回関東O-60サッカー大会 準優勝
栃木大昭サッカークラブ	KTFA第10回関東O-70サッカー大会 準優勝
栃木シティフットサルクラブ	JFA第28回全日本フットサル選手権大会関東大会 第4位
F.C.majikao	第18回全日本大学フットサル大会関東大会 第4位
ISOSOCCERCLUB	第1回関東ビーチサッカーリーグ2部2022 優勝
栃木県女子選抜チーム	日本トリムPresents第14回全国女子選抜フットサル大会関東大会準優勝

【個人】

金子 充	永年にわたり栃木県サッカー協会の役員並びに足利市サッカー協会の役員として、協会の発展に貢献された。
------	---

4. 2022年度 特別功労賞受賞者

【個人】

上野 優作	FIFAワールドカップカタール2022日本代表コーチとして活躍され、協会の普及・発展に貢献された。
寺門 大輔	FIFAワールドカップカタール2022日本代表テクニカルスタッフとして活躍され、協会の普及・発展に貢献された。

ミッションファイル

公益社団法人 栃木県サッカー協会の理念

公益財団法人日本サッカー協会の理念に基づき、栃木県においてサッカーの普及発展、競技力の向上に努め、サッカーを通じて栃木県民の豊かなスポーツ文化の振興及び心身の健全な発達に寄与する。

公益社団法人 栃木県サッカー協会のビジョン

1. 栃木県のサッカーの普及に努め、スポーツに親しむ環境を構築し、県民に健康と幸せを与える。
2. 競技力の向上を図り、栃木県代表チーム・選手が日本及び世界で活躍することにより県民に夢と希望を与える。
3. フェアプレーの精神を広め、人々の友好を深め、安全で豊かな社会を構築することに貢献する。

公益社団法人栃木県サッカー協会取り組み (TFAミッションファイル)

《10年後の達成目標 (国体プラス10 2032)》

目標項目	達成目標	活動内容	現状数値 <2022年度>
サッカーファミリーの拡大	サッカーを愛する仲間(サッカーファミリー)のうち、 <u>プレーヤー・審判員・指導者が4万人</u> (県民の2%)になる。	1 第1種登録チーム数及び登録選手数の拡大 2 U13~U18年代の登録選手数の拡大 3 女子登録チーム数及び登録選手数の拡大 4 フットサル登録選手数の拡大 5 いつでも、どこでも、だれもがサッカーとふれあえる環境づくり	サッカー選手登録 14,358人 フットサル選手登録 470人 審判員 5,590人 指導者 2,280人 計 22,698人 県民人口 1,908,380人 県民の 1.19%
本県代表の活躍	本県代表チームが全国のトップチームとなり、本県出身選手が「 <u>日本代表</u> 」として5名以上、「 <u>Jリーガー</u> 」として40名以上、「 <u>WEリーガー</u> 」として10名以上が活躍する。 また、「 <u>国際審判員</u> 」として2名、「 <u>1級審判員</u> 」として10名以上活躍する。	1 代表チーム強化 2 選手の強化・育成 3 指導者の育成 4 審判員の育成	日本代表 0人 女子日本代表 0人 Jリーガー 31人 WEリーガー 7人 国際審判員 2人 1級審判員 8人
組織の確立	(公社)栃木県サッカー協会が全国及び県民より信頼の得られる組織として確立し、 <u>全国ランキングトップ10入り</u> する。 差別・暴力・暴言の根絶を目指す。	1 組織内の連携強化 2 組織基盤の確立 3 財政基盤の強化 4 ガバナンスの強化 5 コンプライアンスの徹底 6 実施事業の充実	全国ランキング 第34位
Jチーム、その他チーム・団体との協働	<u>栃木SC、その他チーム・団体、自治体と協働でサッカー競技環境の整備</u> を行う。	1 連携・共存体制の確立 2 サポート体制の確立 3 協働連携事業の実施 4 国体レガシーの活用	栃木SC 栃木シティFC ヴェルフェ矢板 栃木シティ学園
サッカー施設の充実	県内の <u>人工芝サッカー場が30面に増加</u> する。	1 対象自治体への整備要望活動の展開	人工芝サッカー場 ・鹿沼市 1面 ・宇都宮市 5面 ・矢板市 3面 ・大田原市 2面 ・那須塩原市 3面 ・日光市 2面 ・佐野市 3面 ・小山市 1面 ・真岡市 3面 ・さくら市 1面 ・足利市 1面 ・栃木市 1面 計 26面

2023年度の
TFA活動目標

- (1)アクションプランの遂行<各連盟・委員会のプランの遂行>
- (2)サッカーファミリーの拡大（グラスルーツの普及促進）
 - <プレーヤー・審判員・指導者登録数を県民の1.3%を目指す>
- (3)差別・暴力・暴言の無い、環境づくり<TFA事務局に相談窓口を設置>
- (4)各種別の本県代表チームの活躍
 - <全国大会ベスト8以上、関東大会準優勝以上を目指す>
- (5)J2栃木SC・関東リーグ栃木シティFC、ヴェルフェ矢板
 - 栃木シティ学園との連携・協力体制の確立
- (6)サッカー施設の拡充<人工芝サッカー場の1面増設>
- (7)県内各地区サッカー協会との連携・協力
- (8)組織の確立と財政の健全化<組織基盤の確立と財政基盤の強化>

2023年度 アクションプラン

1. 第1種委員会：社会人連盟

<p>2023年度の活動目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全国地域サッカーチャンピオンズリーグ2023決勝ラウンドを円滑に運営する。 ・県内リーグチーム強化。 ・各種大会の運営力の向上。 ・成年男子チームが鹿児島国体本大会に出場するための強化・指導の取り組みを行う。 ・県1部リーグから関東リーグへのチーム昇格 ・新規チーム数を増やすための取り組み ・登録チーム内のC級・B級指導者を増やす取り組み ・登録チーム内の3級審判員を増やす取り組み （2023年度から1部、2部リーグチームへの帯同義務化） <p><数値目標> 鹿児島国体で成年男子チームがベスト4以上に入る。 登録チーム内の指導者・3級審判員を1名以上増やす</p> <p><スローガン> チーム社会人（1種）の取り組み</p>
<p>2023年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 （*新規事業も含む）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全国大会の運営 ・関東リーグチームとの連携による国体チーム及び県内チームの強化 ・MC資格保有役員はマッチコミッショナーを2試合以上担当する。 ・県協会・他種別と共同で事業を実施し新規・継続選手数を増やす。 ・トーナメント大会参加数継続のためのサポート活動 ・県内上位リーグから指導者・3級審判員を増やす活動を実施する。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底し安全な大会運営を行う。 ・国体成年男子チームの強化練習会を月に1回以上行う。
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全国社会人サッカー選手権大会関東予選 ・全国地域サッカーチャンピオンズリーグ2023決勝ラウンド ・県内トーナメント大会・リーグ戦 ・J2・関東リーグチームとの連携・協力 ・栃木シティ学園（シティーフットボールアカデミー）との連携・協力

2. 第2種委員会：高校連盟

2023年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高校サッカーの活性化（男女） ・本県代表校の活躍（男女） ・栃木県ユースサッカーリーグU-18の活性化
	<p><数値目標></p> <p>部員数 3,000人 関東大会・全国大会優勝</p>
	<p><スローガン> サッカー環境の整備（気持ちよくサッカーができるように）</p>
2023年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等（*新規事業も含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理体制の充実 ・全国高校サッカー選手権大会栃木大会 ・審判員の充実 ・栃木県ユースサッカーリーグU-18の改善 ・本県代表の関東・全国大会入賞 ・プレミアリーグ・関東プリンスリーグへの参入
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・審判研修会及び講習会の開催 ・各大会の試合途中経過・結果速報 ・各大会における技術・記録係等の研修 ・本県代表の全国大会入賞及び関東プリンス運営の協力体制づくり ・ユース審判員の育成及び活用

3. 第3種委員会：中学連盟

2023年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・競技環境の充実 ・指導者の質の向上
	<p><数値目標></p> <p>①U-15リーグに90%以上のチームの参加 ②公認A級、B級、C級コーチおよびインストラクター養成講習会への参加5名以上 ③M4による指導者講習会への参加率85%以上 ④マッチコミッショナー・ウェルフェアオフィサーの10名以上の養成</p>
	<p><スローガン> より良い育成環境を目指して</p>
2023年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等（*新規事業も含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・リーグ戦を軸とした年間カレンダーの見直しとリーグ再編 ・指導者養成事業及び指導者研修 ・各種大会レギュレーションの見直し
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・U-15リーグ（1部リーグ・2部リーグ・3部リーグ・4部リーグ） ・公認A級、B級、C級コーチおよびインストラクター養成講習会 ・各地区での指導者講習会 ・マッチコミッショナー・ウェルフェアオフィサー養成講習会

4. 第4種委員会：少年連盟

2023年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> 選手登録人数の増加 競技環境の充実 指導者の質の向上
	<p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ①選手登録人数10%増加 ②関東大会ベスト4以上、全国大会ベスト8以上 ③暴力・暴言ゼロ
	<p><スローガン> 「フェアで強い」栃木サッカーを目指して</p>
2023年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> 女子選手、低学年選手の登録推進事業 県リーグ(U12)、地域リーグ(U12/U11/U10)の充実 指導者養成事業及び指導者研修事業 審判員養成事業及び審判員研修事業
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> 女子交流事業、キッズ年代交流事業との連携 地域U11リーグの開催 公認ABC級コーチ及びインストラクター養成講習会 3級審判員昇格研修会 地区指導者講習会 地区審判員講習会 ウェルフェアオフィサー養成講習会 クラブウェルフェアオフィサー講習会

5. 女子委員会：女子連盟

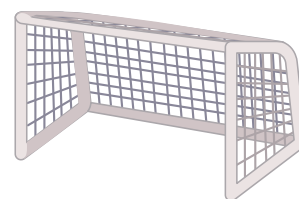
2023年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> トレセン制度の充実・強化 競技人口の拡大 指導者の育成 女性審判、ユース審判の育成 3級新規審判員の発掘 JFA普及コーディネーターの活用 ゲーム環境の整備(特にU-15、18および県リーグ)レフリーインストラクターの必要性
	<p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 競技人口50名増 女性指導者D級10名・C級10名増 女性2級審判員1名、3級審判員5名増 なでしこひろば開催団体3団体増
	<p><スローガン> 未来に繋げる!</p>
2023年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<ul style="list-style-type: none"> U-13~16トレセン活動の充実・強化 国体少年女子選抜チームの強化 国体成年女子選抜の強化策再構築 普及事業 グラスルーツ委員会との連携強化を図り、登録人口増を目指す 審判トレセンの充実と底辺拡大 県リーグ等を利用して審判トレセンの充実を図る。ユース審判を含めた底辺の拡大 新規MCの発掘 審判インストラクターの発掘
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> トレセン女子U-13~16 U-12女子トレセンとの連携 審判トレセン

6. クラブユース連盟

2023年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・関東リーグへの進出（各年代別強化） ・帯同審判の質の向上 ・関東大会（クラブ選手権・高円宮杯・challenge Cup）ベスト8 ・全国大会（クラブ選手権・高円宮杯）への出場
	<p><数値目標> 関東大会でのベスト8以上 全国大会への出場</p>
	<p><スローガン> 未来を担う選手たちと共に！ （高めあい・競い合い・認め合う）</p>
2023年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 （*新規事業も含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・U-15リーグを含めU-14の強化 ・リーグ戦・ベスト8までの帯同審判の向上 ・U-15.13リーグの強化
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・U-15リーグ・U-13リーグ（関東・県） ・帯同審判の講習会（2024年度までに各チーム3級1名の帯同）

7. シニア委員会：シニア連盟

2023年度の活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア連盟の組織化（各年代） ・未登録チームの登録及び参加 ・選手の協会登録強化（各年代） ・関東大会の大会運営 ・関東予選会を突破し全国大会出場を目指す
	<p><数値目標> 各年代（O-40・O-50・O-60・O-70）の全国大会出場 各年代の登録選手の増加</p>
	<p><スローガン> 各年代での関東大会を突破し全国大会出場</p>
2023年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 （*新規事業も含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア委員会の組織の強化 ・シニアリーグの活性（各年代40、50、60、70） ・JFA第24回全日本O-60サッカー大会関東予選会の開催、大会運営 ・シニアチームの各年代の関東予選会の突破し全国大会出場を目指す。
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア委員会の各年代役員メンバー選出 ・県シニアサッカー選手権大会（O-40、O-50、O-60）5月、7月 ・県シニアサッカーリーグ（O-40、O-50、O-60）4月～3月 ・JFA第24回全日本O-60サッカー大会関東予選会の開催 11月



8. 技術強化委員会

2023年度の活動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 Post 国体+10年として、あらゆる事業の見直しと再生・強化 2 スローガンを達成するための具体的対策の検討・始動 3 技術強化委員会の充実及び他委員会との連携 <p><数値目標></p> <p><スローガン> 栃木からA代表選手を！また、各カテゴリー代表選手を！ 全てのカテゴリーにおけるリーグ戦にて関東Aクラスに！</p>
2023年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)	<p>「1」に関して</p> <ol style="list-style-type: none"> ①選手強化策 <ol style="list-style-type: none"> i 女子の育成・強化策の充実 ii 成年男子・成年女子：交互開催に関する育成指針の策定 iii 少年男子・少年女子：下位カテゴリーから強化策 ②指導者養成事業対策 <ol style="list-style-type: none"> i 指導者の発掘 ii 県内養成講習会の充実 iii 重点カテゴリーの指定と指導者養成のサポート ③海外遠征の再開（行政による感染症対策や海外における感染症状況を鑑みながら） <ol style="list-style-type: none"> i 新たな海外遠征指針を策定（実施不可の場合の代替案） ii 海外遠征実行委員会の充実 ④ 中学校部活動改革に伴う選手の育成の充実 <ol style="list-style-type: none"> i 中体連トレセンの在り方について再考 <p>「2」に関して</p> <ol style="list-style-type: none"> ①トレセン事業の見直し（カテゴリーも含めて） <ol style="list-style-type: none"> i トレセンの「質的」向上及びコーチの適正配置 現在のトレセンに関する問題点を総点検し、現状に見合った実施方法を再検討する（'24完全実施に向けて）。 ii 効果的な下位カテゴリーからの育成・強化策の見直し iii TSGの充実及びトレセン等の諸活動への還元 <p>「3」に関して</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「2-①」ともリンクするが、技術強化委員会の組織図を新たに作成し、スローガン目標達成のために新たに【TSG】部所を開設する。ここでは単なる試合分析や情報の還元にとどまらず、県内トレセン選手のデータベース化や新たな才能の発掘を行う。 ②「2-①-ii」における連携強化を図ることで「質的」向上を目指す。
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・トレセン事業 ・指導者養成事業 ・海外遠征またはそれに代わる遠征機会の創出



9. フットサル委員会：フットサル連盟

<p>2023年度の活動目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関東リーグへの進出 ・全国大会への出場 ・フットサルの普及 ・審判員の養成 ・会場の確保
	<p><数値目標> 関東リーグへの進出（関東2部、関東女子） 各カテゴリーでの全国大会出場</p>
<p>2023年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 （*新規事業も含む）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①男女栃木県リーグの競技の充実 ②各年代におけるフットサル大会の運営の充実 ③U-23年代以下の育成・強化 ④普及事業の情報の発信の工夫と促進（県協会HP等で） <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリーフットサルフェスティバル ・オープンフットサル大会 ・施設交流大会 ⑤県内におけるフットサルのPR（県協会HP等で） ⑥審判員の育成 ⑦新規役員の発掘、育成と組織の充実 ⑧全国大会の運営（U-15、地域女子CL、大学CL）
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①栃木県フットサルリーグ ②全日本フットサル選手権栃木県大会 ③全国選抜フットサル大会 ④栃木県女子フットサルリーグ ⑤全日本女子フットサル選手権大会栃木県大会 ⑥全国女子選抜フットサル大会 ⑦年代別各カテゴリー（大学、U-18、U-15、U-12）のフットサル大会 ⑧各種普及イベントの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリーフットサルの開催 ・オープンフットサル大会（エンジョイリーグ） ・施設交流大会 ⑨審判講習会の実施

10. 審判委員会

<p>2023年度の活動目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①審判員の増員、レベルアップを図る。また、実働の審判員だけでなく、インストラクターを中心に大会を運営できるスタッフの育成を目指す。 ②審判トレセンは毎月1回第3日曜日に固定し実施する。講義形式だけでなく、実技研修（プラクティカルトレーニング）を実施する。 ③スタートアップセンターを実施し、その場を3級インストラクターの活躍の場としても有効に活用し、指導者の資質向上、審判員の底辺の拡大・底上げを目指す。 ④コロナ対策として種別毎にWebで講習会を実施し、3級審判員を育成する。 ⑤大学生を対象とする講習会を継続する。 ⑥他県との交流を深める。
	<p><数値目標> ①審判員登録数増員目標 2級：5名（女子含む）、3級：20名（女子含む）、女子2級：2名、3級：5名の増員を図る ②4級：4700名、フットサル：600名、女子審判員：300名を目標に育成する。 （中期、長期）</p>

<p>2023年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 (*新規事業も含む)</p>	<p><スローガン> THE CHALLENGE TO REFEREE FRIEND'S DREAM (審判仲間の夢への挑戦) 十河</p> <p>(1種) ①3級審判員の拡大 県社会人リーグ参加チームから3級審判員を増やし、チーム登録審判員のレベルアップを図る。 ②over40審判員研修会の実施 over40審判員を対象にした実技研修会を開催して技術向上を図る。 ③3級インストラクターの新規増員 チーム登録審判員及び派遣審判員への助言・指導の機会を増やす。</p> <p>(2種) ①4級ユース審判員の資格取得・更新の定着を図る。 ②ユース審判員の育成を充実させる。(特にユース3級審判員の増加と育成を図る) ③若手顧問の指導・育成を図る。</p> <p>(3種) ①審判研修会の充実(トレセンマッチデーの活用) ②主審技能の向上を図る ③ユース審判員の育成(取得と活動機会の提供) ④各地区への審判指導者の派遣(新任顧問、部活動指導員、帯同の保護者等への指導を行う)</p> <p>(4種) ①3級審判員の増員と育成を図る。 ②3級インストラクターの活動機会の充実を図る。 ③他種別でも活動できる派遣審判員の増員を図る。</p> <p>(女子) ①県リーグ、U-15リーグ参加チームから3級審判員を増員させ、リーグ全体のレベルアップを図る。 ②ユース(U-18、U-15)年代の審判員増員と育成。 ③3級審判向け競技規則研修会、実技研修会の実施。 ④公式戦決勝を女子審判員4名で実施。</p> <p>(シニア) ①各チームに、審判資格取得者を4名以上確保する。そのうち、1名以上3級以上の審判員を確保する。 ②シニアの各カテゴリー(O-40からO-60まで)において、最新のルールを正しく理解させ、本県開催関東大会の審判割当を実施。</p> <p>(クラブ) ①派遣審判員として活動できる人材を発掘する。 ②中体連と合同の3級認定講習会を開催し、3級審判を育成する。 ③新しくクラブで活動を始める4級審判員のレベルアップを図るため、指導育成を行う。 ④各チーム、帯同の3級審判員を準備する。</p> <p>(フットサル) ①実働審判員の確保 ②フットサル審判員の能力向上 ③上級審判員候補の発掘</p> <p>(指導・育成・インストラクター) ①3級審判員育成プログラムの定着化 ②2級審判員昇級候補者の強化 ③審判トレセンによる派遣審判員の強化・育成 ④3級審判員フォローアップ研修の実施 ⑤3級審判インストラクター強化研修会の実施 ⑥kick offシステムでのアセッサー割当の実施 ⑦レフェリースタートアップセンターによる4級審判員育成 ⑧審判インストラクタートレセンの実施</p> <p>(割当部) ①kick offサイトの継続的有効活用 インターネットやスマートフォン等を活用して審判員、インストラクターのスケ</p>
--	---

	<p>ジュール情報を共有し、効率の良い審判割当、アセッサー割当を行う。 kick offシステムでの審判割当、また必要事項を送信する。（健康チェックシートや連絡事項など） kick offシステムでのアセッサー割当を検討する。（一部試合） kick offシステムで栃木県内の2・3級審判員に派遣協力調査を行い、派遣審判員を登録制度化するように検討する。</p> <p>②各種別の連携強化 種別の垣根を越えて協力し、様々な種別に派遣することで審員のレベルアップに貢献する。 また、派遣審判員を対象とした研修会を開催し一体感をもって底上げする。今年度より開幕前研修会を審判トレセンの位置づけで栃木県内の審判員に参加を促す。</p> <p>③在野の審判員の発掘 級に関係なく派遣審判員を目指す人材の発掘、育成をする。 （スタートアップセンターを軸に4級を底上げできるようにし、県内でアクティブに活動できる人材を増やす活動を行う。） 県協会ホームページに掲載し、幅広く宣伝できるように周知する。 kick offシステムを使用して県内の4級審判員に直接、スタートアップセンターの案内を送信して参加者を増やす。 kick offシステムを使用して栃木県内の2・3級審判員に直接アプローチしてサッカーの審判員協力を促す。また、各種別と連携し、派遣審判員の増員を図る。 また、各種別からも積極的に活動したい方を呼びかけるようお願いをする。 （登録部） 講習会の申込方法など、kick offサイトの利用方法に関わるわかりやすい資料を作成しHPに掲載する。</p>
<p>目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名</p>	<p>（1種）</p> <p>①チーム審判員を対象にした3級昇格講習会を実施する。 ②自治体職員サッカー大会を用いover40審判員を対象にした研修会を開催する。 ③3級候補者を対象に競技規則や技能の向上を図る育成研修会を開催する。</p> <p>（2種）</p> <p>①ユース審判員 ・ユース審判員の上級資格取得の環境整備を行う。（3級取得講習会をオンラインで実施する） ・ユース審判員の上位大会（JFA U-12やインターハイ）への派遣 ・4級取得講習会を中部・北部・南部で行う。4級更新については、e-ラーニングを中心とし更新不備とならないような情報を提供する。</p> <p>②顧問 ・若手顧問を第2種の試合において積極的に割当して指導する。 ・若手顧問を指導して、2級審判員や3級審判員に昇級させる。</p> <p>（3種）</p> <p>①審判研修会の充実 ・10月ー中学校県新人大会最終日 ・12月ー下野杯中学生サッカー大会ベスト16の8試合 ・3月ー東日本中学生マロニエフェスティバルへの協力（他種別との交流を含めて） ・トレセンマッチデーへのインストラクターの派遣 ・オンラインを活用しての3級審判養成講習会の実施 ・地区担当者との連携強化（オンラインの活用）</p> <p>②主審技能の向上を図る ・他種別の審判員との交流を推進する。 ・トレセンマッチデーに3種インストラクター資格保有者を派遣し、指導を行い、技能の向上を目指す。</p> <p>③ユース審判員の育成（取得と活動機会の提供） ・トレセンマッチデーや下野杯の副審等、活動機会の提供</p> <p>④各地区への審判指導者の派遣（新任顧問、部活動指導員、帯同の保護者等への指導を行う） ・中学校部活動改革に伴い、教員以外の部活顧問や審判員への対応として、必要に応じて指導者を派遣する。</p>

- (4種)
- ①審判研修会の計画的実施
 - ・実技指導者研修会（各地区審判アドバイザー）
 - ・3級審判員研修会（3級審判員のうち希望者）
 - ・3級昇格に向けた研修会（3級昇格希望者）
 - ②インストラクターによる指導・研修の場の拡充
 - ・県トップリーグ
 - ・新規4級審判資格取得講習会（実技指導）
 - ・3級昇格実技審査
 - ③派遣審判員リストの作成と割当部との連携強化
 - ・各種県大会の割当・他種別との連携
 - ・所属審判員への研修関係の情報伝達、参加啓発
- (女子)
- ①ユース審判員の育成
 - ・5月4級新規取得講習会の実施（県央・県南・県北）
 - ・高体連女子、クラブチームと連携を図り、リーグ戦に於いての実践と継続的な指導
 - ②研修会の充実
 - ・新規3級取得WEB講習会の実施
 - ・3級取得者向けルール講習会の実施
 - ③女子公式戦決勝4名女子で実施
- (シニア)
- ①審判の取得・更新を積極的に図る。
 - ・シニア主催新規4級審判資格取得講習会の実施
 - ・登録チームに、審判員の確保を促す。
 - ②本県開催関東大会の審判割当
 - ・シニア委員会での研修（最新ルール解説、派遣協力依頼）
 - ・リーグ戦や選手権大会での実技研修
 - ・3級審判員の育成
- (クラブ)
- ①派遣審判員として活動できる人材及び3級を目指す審判員を発掘し、指導育成する。（各チーム3級審判員帯同への推進）
 - ・日本クラブユースサッカー選手権（U-15）大会栃木県大会
 - ・栃木県U15・13リーグ
 - ・高円宮杯日本クラブユースサッカー選手権（U-15）大会栃木県大会
 - ・3種リーグチャンピオンシップ
 - ・下野杯争奪県下中学生サッカー選手権大会
 - ・他 各種別各大会
 - ②3年目となる中体連と合同の3級認定講習会を開催し、3級審判を育成し審判の活性化を図る。
 - ③U-13リーグ等で、4種からクラブで審判活動を始める4級審判員のレベルアップを図るため、計画的に指導活動を行う。
 - ④全チームで帯同の3級審判員を準備し、リーグ運営を適切に行い、各種大会の派遣審判をクラブ内で対応する。
- (フットサル)
- ①各種（県・地区大会）大会帯同審判員へのアプローチ
 - 各種大会帯同審判員への技術指導
 - F4審判員への競技特有のルールや審判方法
 - 審判をする上での困りごとについての情報提供
 - ②県リーグ担当審判員の主審技量の向上
 - 担当審判員研修会、他県リーグ・審判交流等を通じての競技知識の向上
 - 各種大会におけるインストラクターによる実技指導
 - ③F3昇級の為の育成コースの受講者の増員
 - F2昇級候補者の育成
 - F4活動情報調査結果（2022年12月実施済）における昇級希望者へのアプローチ及びフィットネステスト試験方法などの情報提供
- (指導・育成・インストラクター)
- ①3級審判員育成プログラムの各種別での実施。
 - ②2級審判員昇級候補者に対し、アドバイザーを配置し、アセッサーを定期的に派遣

- する。
- ③派遣審判員として活動する3級審判員の増加を目指し、3級取得後1, 2年目の審判員を対象としたフォローアップ研修会を実施する。
 - ④3級審判員を中心に実技研修会の参加審判員を広く募り、派遣審判員の増加を図る。
 - ⑤審判インストラクターに対し、新アセスメント様式によるレベル合わせ研修会を複数回実施する。
 - ⑥2級審判インストラクター昇格候補者の強化研修として、SI3強化研修会を定期的実施する。
 - ⑦割当部、各種別及び各部と連携を図り、kick offシステムによるアセッサーの早期割当てに努め、強化対象審判員の継続的指導を実施する。
 - ⑧経験の浅い3級・4級審判員の育成研修の場として、レフェリースタートアップセンターを継続開催する。
 - ⑨派遣審判員として活動する2・3級審判員の研修の場として、審判トレセンを継続開催する。
 - ⑩審判インストラクターの質的向上を図るためにインストラクタートレセンを実施する。

11. グラスルーツ委員会

<p>2023年度の活動目標</p>	<p><全体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各連盟や委員会、種別を超えて多くの人が関わり普及事業を提供するための組織基盤の整理と強化 ・未登録者の普及事業への参加者数の増加 ・巡回指導→フェスティバル→登録拡大推進に繋げる事業の構築 ・関わるスタッフの発掘（巡回指導、フェスティバル等） ・いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会開催地区との連携（レガシープログラム検討） ・行政との連携（ウォーキングフットボール推進＝健康事業推進） <p><フェスティバル></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区キッズフェスティバルの内容の充実（未登録者対象や親子サッカー等の提案） ・種別間の連携（地区のチーム紹介や課題克服のための施策） ・障がい者サッカーフェスティバルの認知度向上 <p><キッズリーダー養成講習会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・7地区（4種地区割）開催、女性対象の開催 ・講習会や研修会の開催（障がい者サッカーを理解する内容、巡回指導員やキッズリーダーチューター、キッズリーダー等の有資格者の自己研鑽） <p><なでしこひろば> ※登録拡大推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とちぎフットボールセンターを活用したなでしこひろばの開催継続と県内各地域で実施のなでしこひろばとの連携と拡充のサポート <p><女子サッカーデー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての世代が楽しめる企画と同時に女子サッカーの認知度を上げる工夫 <p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・サッカー未登録者「延べ500人」のフェスティバル参加 ・キッズリーダー講習会の開催（8コース、160名） ・キッズ巡回指導360回 ・講習会・研修会等の開催（2回） ・なでしこひろばの開催（通年）※登録拡大推進事業 <p><スローガン> 栃木サッカーの発展はグラスルーツから ～だれもがサッカーの楽しさに触れられるように～ ～地域で繋がるサッカーファミリー～</p>
<p>2023年度特に力を入れて取り組むポイント又は事業等 （*新規事業も含む）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・JFAキッズフェスティバル7地区開催（未登録者対象） ・地区キッズフェスティバル（内容の工夫⇒キッズアカデミーとのすみ分け⇒各種別へ繋げる） ・なでしこひろばの継続～発展（女子の小・中学生の登録者数増に繋げる、レベル別

	<p>の開催検討やチーム紹介等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェスティバルに関わるスタッフの発掘 (地区の種別間連携) ・障がい者サッカーの理解者を増やす ・いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会レガシープログラムとして開催地区との連携による普及活動 (ファミリーウォーキングフットボール等の普及推進)
目標達成に向けて取り組む事業又は競技会名	<ul style="list-style-type: none"> ・JFAキッズサッカーフェスティバル ・JFAレディースガールズフェスティバル ・JFA女子サッカーデー ・障がい者サッカーフェスティバル ・キッズ巡回指導 ・キッズリーダー養成講習会、その他講習会 ・地区キッズサッカーフェスティバル ・なでしこひろば (通年) ・障がい者サッカーフェスティバル (3回) ・多種別連携事業

本県開催 (県協会主管)

皇后杯 JFA 第44回 全日本女子サッカー選手権大会

皇后杯 JFA 第44回全日本女子サッカー選手権大会の2回戦、3回戦、4回戦、準決勝の10試合が本県で開催され、県サッカー協会主管、女子サッカー連盟が運営を行った。

- | | |
|---|--|
| <p>◆ 2回戦 2022年12月3日
11:00 KickOff 栃木県グリーンスタジアム
朝日インテック・ラブブリッジ名古屋
1 (0-1、1-1) 2
早稲田大学</p> <p>◆ 2回戦 2022年12月3日
14:00 KickOff 栃木県グリーンスタジアム
愛媛FCレディース
3 (2-1、0-1、延長1-0、0-0) 2
SEISA OSAレイア湘南FC</p> <p>◆ 3回戦 2022年12月10日
11:00 KickOff 栃木県グリーンスタジアム
スフィーダ世田谷FC
6 (4-0、2-0) 0
東洋大学</p> <p>◆ 3回戦 2022年12月10日
14:00 KickOff 栃木県グリーンスタジアム
オルカ鴨川FC
0 (0-0、0-0、延長0-0、0-0) 0
(PK 4-5)
早稲田大学</p> <p>◆ 4回戦 2022年12月17日
11:00 KickOff 栃木県グリーンスタジアム
大宮アルディージャVENTUS
1 (1-0、0-0) 0
早稲田大学</p> | <p>◆ 4回戦 2022年12月17日
14:00 KickOff 栃木県グリーンスタジアム
アルビレックス新潟レディース
2 (1-0、1-0) 0
ジェフユナイテッド市原・千葉レディース</p> <p>◆ 4回戦 2022年12月18日
11:00 KickOff カンセキスタジアムとちぎ
三菱重工浦和レッズレディース
3 (2-1、1-0) 1
AC長野パルセイロ・レディース</p> <p>◆ 4回戦 2022年12月18日
14:00 KickOff カンセキスタジアムとちぎ
マイナビ仙台レディース
1 (0-4、1-0) 4
日テレ・東京ヴェルディベレーザ</p> <p>◆ 準々決勝 2023年1月15日
14:00 KickOff カンセキスタジアムとちぎ
日テレ・東京ヴェルディベレーザ
3 (1-0、2-0) 0
サンフレッチェ広島レジーナ</p> <p>◆ 準々決勝 2023年1月15日
18:00 KickOff カンセキスタジアムとちぎ
三菱重工浦和レッズレディース
1 (0-2、1-0) 2
INAC神戸レオネッサ</p> |
|---|--|

栃木SC

2023シーズン

監督 時崎 悠

縁とゆかりのあるこの栃木県で、昨年引き続き2023シーズンも栃木SCを指揮させていただくことは、とても光栄なことだと思っています。クラブは多くの選手と契約を継続させていただき、新加入の6選手を新たに加え、1月7日から始動しました。ほとんどの選手たちがクラブに残ったことは素晴らしいことでもありますし、今年在籍している選手たちと力を合わせ、新たな競争をしながら、プラスαを積み上げていきたいと思っています。

昨シーズン得点が1番少なかったというところで、得点を取るチャンスをいかに増やすか、相手ゴールにボールを運んでいけるかが今年の課題と積み上げていかなければいけない最大のテーマだと思っています。そういった意味でいうと、始動をしてからは、御殿場でのキャンプも行い、ピッチ内外でもチームとしても多くの時間を共にし、昨年の部分を継続しながら、選手間での理解も含めて積み上げて来られているものは多いと思っています。栃木SCというクラブを前進させていくために、自分自身も成長しながら全力を尽くしていきたいと思っています。

今シーズン、より多くの勝利を皆さんと共に共有できるように、そして皆さんに「また見に来たいな、また応援したいな」と思っていただけのような試合をしたいと思います。今まで以上に地域に愛されるようなチームになっていきたいです。今シーズンも皆さんと一緒に栃木県を盛り上げていたら嬉しく思っています、宜しくお願いいたします。



© TOCHIGI SC

第1種委員会・社会人連盟

とちぎ国体を振り返って

成年男子サッカーコーチ・庶務
高秀賢史

2022とちぎ国体の優勝に向け、成年男子サッカーチームは、2018年から5年プランで強化に取り組んできた中、私は、2年目の2019茨城国体から関わらせていただき、2020鹿児島国体から堀田監督と本格的に関わらせていただきました。しかし、2020鹿児島国体は、コロナの影響で本大会は中止、国体チームの活動もほぼできませんでした。

2021三重国体の本大会は中止されましたが、関東ブロック予選は開催され、1回戦では山梨県にPKで勝利したものの、2回戦で茨城県に0-1、3回戦で千葉県に0-2負けてしまい、関東代表にはなれませんでした。結果として得点が1点も取れなく、課題として、攻撃に変化をつける個で打開できる能力が必要だと感じました。

そのような中、とちぎ国体の優勝に向け、チーム作りが始動しました。

チームづくりのテーマとしては、私たちが国体3連覇（静岡、埼玉、岡山）した時のように「強い栃木の再建」を掲げました。

選手選考については、堀田監督のチームへの想いを理解した昨年からのメンバーを中心に、関東リーグで活躍する「栃木シティ」「ヴェルフェ矢板」、県社会人リーグをけん引する「FC CASA」の選手に加え、ふるさと制度の積極的な活用により、現大学で活躍している選手に声をかけ、選手



選考を行い、ラージグループを形成しました。

スタッフについては、今後の栃木の中心的な指導者を担えるよう「指導者育成」の観点や、上記の各チーム選手間のコミュニケーションが円滑に図れるように選出しました。

チームコンセプトとしては、勝負にこだわるプレーや攻守において積極的にチャレンジすることをベースに、マイボールの時間を長くし、ゲームの主導権を握り続けることを掲げ、攻撃においては、数的優位をつくり、バイタルエリアとポケットの崩し、数的優位を作りだし、シュートの回数を増やすこと。守備においては、素早いファーストディフェンダーの確保、粘り強い守備を行うことをベースとしました。また、個人戦術として、4局面（攻撃、攻撃から守備、守備、守備から攻撃）を常に意識させ、局面に合ったプレーを選択することなどチームが目指す状態について選手、スタッフが共有したうえで、取り組むこととしました。

活動については、選抜チームということもあり、選手間の連携等を深めるため数多く強化練習会を行いたかったのですが、各チームのリーグ戦の都合上、各チーム活動を最優先にしてもらうため、選手のコンディション等も考慮し、4月から9月に毎月1～2回の活動を行いました。

強化練習会では、テーマを絞って効率的に戦術理解を深めることにしました。

まず、守備の共通認識を図るため、システムごとに各ポジションでの動き方やチームとしてのボールの取りどころなどを確認し、攻撃においては、個の能力を最大限生かし、チームとしての形やシュートシーンを多くするためにテーマを決めて取り組みました。

ラージグループからの最終メンバー選考については、「ザスパクサツ群馬」などの実践でのチームへの適応をベースに、複数のポジションを担え、優勝するには最大4連戦行うあたりも考慮し、チームとして最大値になるよう国体メンバー15名を選出しました。

本大会では、1回戦の佐賀県相手に試合を優位に進め3-0で勝つことができました。立ち上がりは固いプレーも見受けられましたが、前半、室崎選手の1点を契機に、終始、栃木県ペースの試合運びをすることができました。

準々決勝では、岐阜県相手（FC岐阜SECOND選手中心のチーム）に、一進一退の攻防が続きました。シュート数も8-6（栃木-岐阜）と数字

に表れるように均衡していました。結果、両チーム得点を奪えず、0-0で試合終了となり、PK戦となりました。PK戦では、記憶に新しい、高校サッカー選手権の矢板中央高校で3年連続、PKの立役者となっている藤井選手（現：明治大学）を起用しましたが、運悪く勝つことができませんでした。結果は、5位でした。

全試合を振り返ると、国体の試合時間は、35分ハーフと試合時間も短く、拮抗した試合が多く、16試合中、7試合がPKといういかにPKで勝利をつかめるかが、上位に行く鍵となると改めて感じました。栃木での地元開催で、たくさんの方々に応援していただき、選手、スタッフはそのような環境でサッカーできたことに感謝し、この経験を今後のサッカー人生に活かしてほしいと思います。

最後になりますが、この大会を望むにあたり、県協会や関係者の方々をはじめ、栃木のために熱い想いで集まって戦ってくれたラージグループを含めた選手、スタッフ、またその所属する各チーム関係者の方々に、深く感謝申し上げるとともに、今後、より一層の栃木県のサッカー強化に向け取り組んでいきたいと思っています。本当にありがとうございました。



2023シーズンも前へ！

栃木シティフットボールクラブ
若林 学

日頃より、栃木県サッカー協会、ホームタウンである栃木市、壬生町及び栃木県南地域のみならずには当クラブの活動に対し、深いご理解とご支援、ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

昨シーズンは今矢監督をチームに迎え、新たな栃木シティを見せるべくJFL復帰にチャレンジしました。序盤戦は苦しんだものの、徐々に今矢サッカーが浸透し9連勝を飾るなどリーグ優勝をすることが出来ました。全国地域SCLでは1次ラウンドを2勝1分けで決勝ラウンドに進出。決勝ラウンドでも初戦を勝利しこのままの勢いで昇格を掴みたいところでしたが、終わってみれば1勝1敗1分けの3位と悔しい結果に終わってしまいました。足りないの一言ですが、何かが足りないのか、すべてが足りないのか今シーズンにすべてをかけて答えを出していきたいと思えます。惜しかった、もう一步はもういらぬ。内容もちろん大事になりますが、何よりも結果に拘りシティは今シーズンに臨みます。

今シーズンも指揮を執るのは今矢監督。シティの目標はJリーグ入りです。しっかりと先を見据えビジョンを持って取り組んでいきます。JFL昇格は通過点です。どんな状況でも前に進み自分たちで勝ち取るしかありません。昨シーズン積み上げたものをさらに積み上げ、強いシティを見せられるようにします。主力として戦ってくれた選手の残留や、コーチングスタッフもほぼ変わりなく戦えることは大きなアドバンテージです。そして、新加入選手にはJリーグでも実績十分な田中パウロ淳一、作新学院大学から大寫貴と11名の新メンバーが加入。それぞれに特徴(武器)があり、楽しみ選手達が来てくれました。

チームは1月中旬から始動し開幕に向けた準備をしています。始動初日から戦いはすでに始まっていて、チーム内の競争もその一つです。チームメイトは仲間でありライバル。高いレベルで切磋琢磨し、個の能力を上げる事がチーム力を上げる事に繋がります。スポーツは勝ったチームが強い。プロだから上手いわけでも強いわけでもありません。勝ってプロとしての力を証明します。

今シーズンのスローガンは『BREAKTHROUGH

H 2023』。選手、チームスタッフ、アカデミースタッフ、クラブスタッフを含めシティに関わる全ての人で今シーズンこそ壁を打ち破り目標を達成します。皆様には今までと変わらぬ応援でチーム・クラブの後押しをお願いします。共に目標を達成し、共に笑顔で今シーズンを終われたらと思っています。

最後になりましたが、栃木シティフットボールクラブは前だけを見て進み続けます。大勢の人に知ってもらい、応援してもらい、皆様と共にJリーグ入りを目指していきたいと思う気持ちに変わりはありません。シティの発展が地域の発展と信じ、私たちが出来る事を一つ一つ全力で行っていきます。CITY FOOTBALL STATIONを中心に、より地域との絆を強固にしながら、サッカーを通して栃木県南地域の活性化に取り組んで行くことはもちろん、これまでと変わらず皆様に『夢・希望・感動』を与え続けられるようなサッカークラブを目指して参ります。

引き続き、ご指導とご支援、ご声援の程、宜しくお願い致します。



更なる前進を目指して

ヴェルフェ矢板 箕輪 圭祐

日頃より(公社)栃木県サッカー協会、ホームタウンである矢板市の皆さまをはじめ多大なるご支援、ご協力、ご声援を賜りまして誠にありがとうございます。

2022シーズンは、決して順風満帆と言えるシーズンではありませんでした。2021シーズンに関東社会人リーグ2部に復帰を果たし、その勢いのままリーグ戦は第5節まで負けなし。天皇杯では、栃木県予選を勝ち抜き10年ぶりとなる本戦出場を

掴み取ることができました。

一方で、リーグ戦の後期においては、9試合で3分6敗と1勝もできず、10チーム中9位という降格圏内でシーズンを終了しました。幸い、関東二部残留という形になりましたが、最初のスタートからは想像できない結果となってしまいました。

改めてサッカーというスポーツの難しさを痛感したと同時に、クラブ、選手、スタッフ全員で次の課題に向けてどのように活かしていくことができるのか考えさせられたシーズンでもありました。そんなチームが苦しい時期にもサッカーに誠実に向き合えたのは応援してくれる皆さまのおかげであります。この場を借りて、お礼申し上げます。

私たちは、前身となる矢板サッカークラブから始まり、様々な人の力を借りながら今のようなクラブに発展し、素晴らしい環境でサッカーができています。

この環境が当たり前だと思うのではなく、このクラブの軌跡を想いながら引続きサッカーと向き合っていきたいと思えます。

仕事や家庭と両立を図りながら、限られた時間での練習をコツコツ積み重ねた先にある勝利に一歩一歩着実に近付けるよう、今シーズンは『更なる前進』をスローガンに、現状に満足することなく、一人一人のサッカー感を日々ブラッシュアップしていくことを意識し、関東一部への昇格を目指して戦っていきたいと思えます。

末筆になりますが、栃木県のサッカーに関わる皆さま、そして（公社）栃木県サッカー協会のますますの発展をお祈り申し上げます。ありがとうございました。



作新学院大学サッカー部 今年度目標

北島 伊織

<昨年度の大会結果について>

昨年度は関東2部昇格、アミノバイタルカップベスト8以上、天皇杯出場という目標を掲げてスタートしました。それとプラスし、昨年度は人として当たり前のことをできるようにするということが、サッカー以外の面からしっかりとすることを今までと違い重視していました。アミノバイタルカップ、天皇杯では、4年生に頼り切ってしまい、チームが一体感になりきれず大事な場面で力を出せなかったのですが、時間が経つにつれ、チームを構築することができ、参入戦ではチーム全体が試合がある関東各地に足を運び応援することでチーム力が高まり、関東2部に昇格することができました。

しかし、サッカー以外では最初は、全員が気にして発言や発信をしていたものの大きな大会があるとそちらに気がいってしまい、用具の管理、各学年の部室が清掃できていなかったりとまだまだサッカー以外での面では目が行き届いてないことが多くあったと思います。

<今年度の目標について>

今年度の目標は、関東2部リーグ5位以内、総理大臣杯出場、天皇杯出場です。長年目標であった関東2部昇格を果たしましたが先輩方の力があってだけで自分たちは何も成し遂げていません。今年度は4年生を中心に全体がしっかりと集結して闘えるような集団にし、練習から意識レベルを上げ、初心を忘れず互いが切磋琢磨できるようにしていきます。

また、先ほど昨年度の大会結果にもあったように、人として当たり前のことは当たり前に、サッカー以外のところから隙を作らず、周りから応援されるチームにすること、これは昨年と同様継続していきます。昨年は、各大会、試合があるたびにその隙を作らないという意識が薄くなり結果的に、関東2部に昇格できたもののもう1つレベルが上がると勝てなくなってしまうと思います。そのため、常に周りを意識し1人1人が変化に気づけるような集団にしていきたいです。



東社会人サッカー2部リーグに参入するまでのチーム作りを4年生が中心となりやっていきたい。2022年とは違い、2023年はリーグ戦のチャンピオンというプレッシャーもあるが、2023年は、初心に戻りチャレンジャー精神を持って、社会人リーグを戦っていききたいと思う。

また、2022年は、いろいろな問題が起きてしまい、様々な方に迷惑をかけてしまったので、2023年は、問題を最小限に抑え、自分たちのいる立ち位置を自覚し、1人1人が責任を持ち行動したいと思う。



今年度を振り返って・来年に向けて

作大FC 落合 周

<2022年を振り返って>

2022年は、「第55回栃木県社会人サッカー1部リーグ優勝・関東社会人サッカー2部リーグ参入・栃木県知事杯第55回社会人サッカー大会優勝」と目標を立て自分たちの立ち位置に満足せず、チームワークを意識して1年間を戦うことをしてきた。

具体的には、1ヶ月ごとにチームミーティングを行い、その月の練習や試合内外で良かったこと改善すべきことを挙げ、良かったことは継続し、改善すべきことは、どのようにしたら改善できるか、時間が無い中でチームがどの立ち位置を目指し、どこのステージでやっていきたいかを共通認識として確認するために行ってきた。

その結果、知事杯では、準優勝と惜しくも優勝を逃してしまったが、リーグ戦では、チームが1つにまとまり最後までわからない状態で最終節を勝ちきり優勝することができた。また、関東社会人サッカーリーグ参入戦では、あと1歩及ばず3位という結果で2022年を終えた。

作新学院大学サッカー部の【「心機一転」サッカー選手である前に人として】というスローガンを掲げ、2022年の社会人チームはそのスローガンを達成することができた。

<2023年の目標>

2023年の社会人の目標は、昨年の目標「第56回栃木県社会人サッカー1部リーグ優勝・関東社会人サッカー2部リーグ参入・栃木県知事杯第56回社会人サッカー大会優勝」を目標を達成し、リーグ戦では、優勝をすることを通年の目標とし、関

第2種委員会・高校連盟

高校連盟より

栃高体連サッカー専門部委員長
臼井 紀仁

高校サッカー選手権栃木大会

101回目を迎える高校サッカー選手権大会栃木大会は、佐野日大が6大会ぶり9度目の優勝を果たしました。前年度まで5大会連続優勝の矢板中央は、準決勝戦で宇短大附属にPK戦で敗れました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年までの2大会は観戦者を制限して実施してきましたが、今大会では一般の方々の観戦も可能となりました。高校サッカーの大きな魅力である声出し応援はできませんでしたが、支えてくれている多くの人々の中で試合ができる、以前のようなスタジアムが少しでも取り戻せたのではないかと思います。



(優勝した佐野日大スターティングメンバー)



(決勝戦の様子)

高校サッカー新人大会

令和2年度は中止、昨年度は2回戦終了後に中止となった新人大会ですが、今年度は決勝戦まで実施できました。高校連盟としては初めてカンセキスタジアムを使用し、準決勝を行いました。決勝戦では、宇都宮工業に勝利した佐野日大が優勝となりました。



(カンセキスタジアムでの新人大会準決勝の様子)

おわりに

コロナ禍の中、今年度は予定していたすべての大会を実施することができました。各大会運営のみならず、10月に開催されたとちぎ国体の運営においても、多くの先生と生徒の皆様にご協力をいただき、無事大会運営をすることができました。この場をお借りして、感謝申し上げます。

全国高校サッカー選手権大会

6大会ぶりの全国選手権出場となった佐野日大は、2回戦で奈良育英(奈良県)に勝利すると、3回戦ではプレミアリーグ所属の履正社(大阪府)をPK方式の末に破り、ベスト8に進出。優勝した岡山学芸館(岡山県)に準々決勝で破れたものの、インターハイの矢板中央に続き、本県代表として素晴らしい活躍を見せてくれました。

プリンスリーグ関東・ユースリーグ栃木

今年度から2部制となったプリンスリーグ関東では、1部所属の矢板中央が7位、2部所属の矢板中央Bが5位で終え、それぞれ残留となりました。県リーグ1部を全勝優勝した栃木SC U-18は、関東2部参入戦に臨み、千葉県代表の八千代に勝利して念願のプリンスリーグ昇格を果たしました。

令和4年度 第101回全国高校サッカー 選手権大会に出場して

佐野日本大学高等学校サッカー一部
主将 江沢 匠映

今年度のチームは、5月の関東大会予選で準決勝、翌月の総体予選でも決勝戦でPKまで追い詰めるも敗れてしまい全国大会へ出場することができませんでした。その悔しさから自分たちは話し合いをし、選手権では必ず全国へ出場するという決意を固め、日々の練習に取り組みました。

選手権予選では、今までの練習の成果を発揮するとともに一戦一戦最後まであきらめない気持ち

で挑んできました。また、試合に出場している選手だけでなく、控えやスタンドにいる選手全員チーム一丸となり、決勝まで戦ったおかげで6年ぶりに優勝し全国大会へ出場することができました。

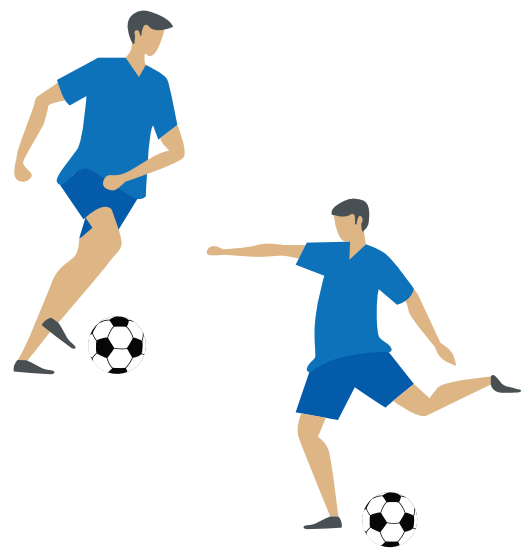
全国大会では、2回戦奈良県代表・奈良育英高校。相手は全員攻撃全員守備というチームスタイルで、ハードワークがとても徹底されていたため、とても展開の速い試合になりました。その中でもお互い何度かチャンスはありましたが、どちらも決めきることができませんでした。しかし、後半アディショナルタイムに9番中埜がフリーキックのこぼれ球を押し込み1-0で勝利することができました。

3回戦では、大阪府代表・履正社高校、プロ内定の選手が2人擁するとともにレベルの高いチームでした。攻撃力があり、押し込まれる時間が続きましたが、5バックを中心に前半は失点なく抑えることができました。後半の立ち上がり2分、3番大野からのロングスローを5番青木が押し込み先制しました。しかし、後半20分、右サイドから突破され、同点に追いつかれました。その後も相手の猛攻を防ぎ同点のまま後半が終了し、PK戦へともつれ込みました。PK戦ではGK17番平岡のビッグセーブもあり1-1（PK5-4）で勝利することができました。

準々決勝では、岡山県代表・岡山学芸館高校。大柄な選手は少なかったけれど、1人ひとり体幹や技術が高く、組織としても完成度の高いチームでした。これまで、自分たちの思う試合展開でゲームを運べていましたが、この試合では相手に前半11分、先制点を許してしまい、その後も相手に押し込まれる時間が続き苦しい試合でした。後半も相手のペースで試合が進み、0-4で負けてしまいました。しかし、最後まであきらめずに1人ひとり精いっぱい戦えたので後悔を残すことなく今大会を終えることができました。

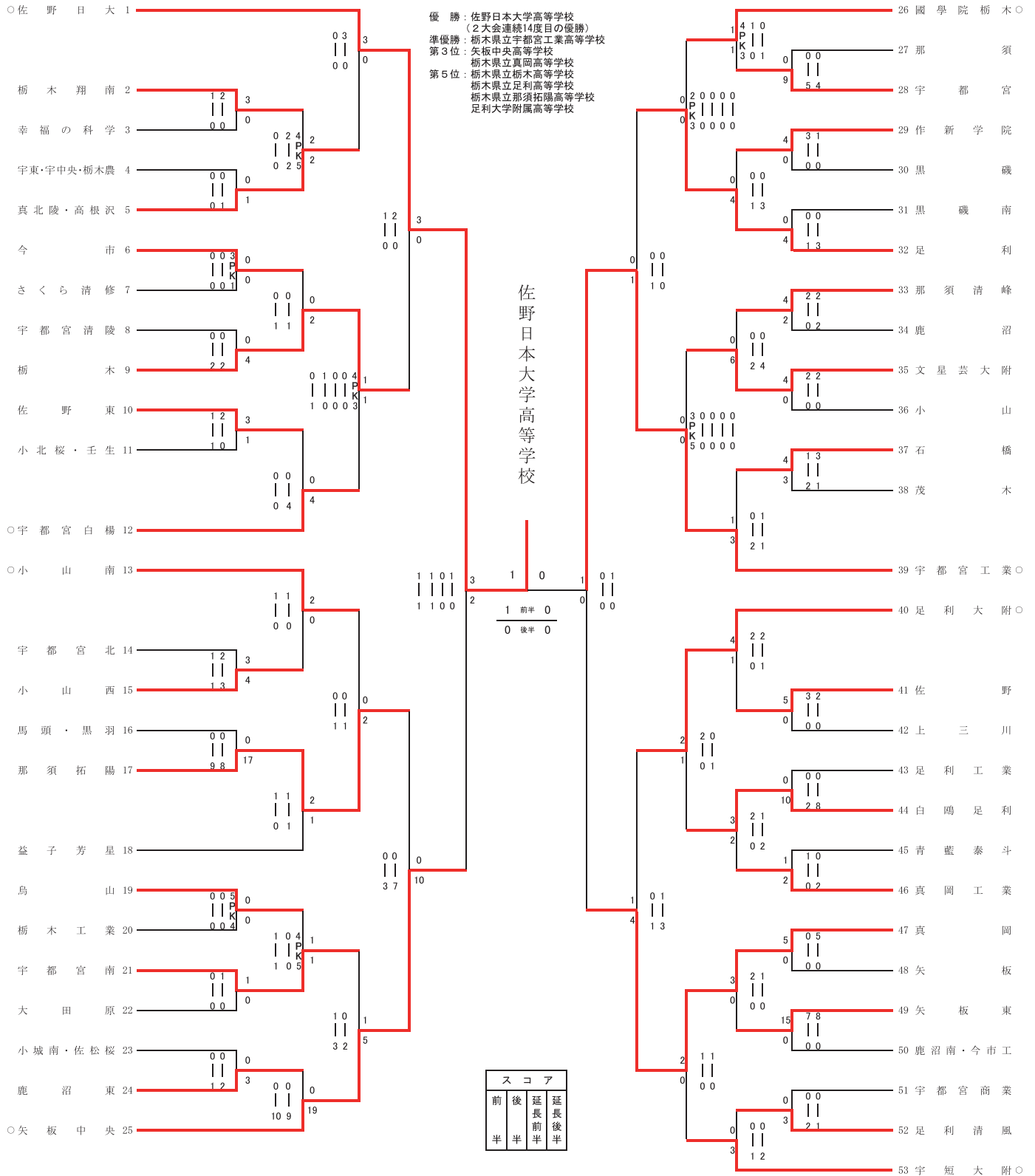
私は今大会を通じて仲間の支えや信頼関係の大切さを改めて感じました。そして、一戦一戦全力で仲間を信じて最後まであきらめずにプレーできたことを誇りに思います。

サッカー協会をはじめ、家族や先生方、応援してくださった皆様の支えもありこのような素晴らしい結果を残すことができました。本当にありがとうございました。最高な3年間でした。



令和4年度 栃木県高等学校サッカー新人大会 結果

令和5年1月14・21・28・29日, 2月4・5日



1/14 | 1/21 | 1/28 | 1/29 | 2/4 | 2/5 | 2/4 | 1/29 | 1/28 | 1/21 | 1/14

栃木県U-18女子サッカーリーグ開幕

白鷗大学足利高校 増田能人

2022年6月4日から、栃木県U-18女子サッカーリーグ2022が開幕しました。栃木県では、初めてのU-18女子サッカーリーグとなり、1部・2部リーグ制を導入しました。1部リーグは5チームとなり、宇都宮文星女子高校、宇都宮短期大学附属高校、宇都宮女子高校、ヴェルフェ矢板レディース、白鷗大学足利高校が参加しました。2部リーグでは、6チームとなり、宇都宮中央女子・中央高校、大田原女子高校、小山城南高校、作新学院高校、栃木女子高校、合同チーム（栃木翔南高校、益子芳星高校、佐野東高校、鹿沼高校）が参加しました。また、宇都宮文星女子高校は関東女子（U-18）サッ

カーリーグ2部にも所属しています。

栃木県のU-18女子サッカーでは、大会数やチーム数が少なく、練習試合のための会場確保も困難であるため、試合経験の少ないチームが多くあります。しかし、リーグ戦を導入することによって、たくさんの試合数を確保することができ、より多くの選手が経験を積むことができるようになりました。まだまだチーム数は少ないですが、U-15が中心のクラブにU-18の選手が参加したり、2023年度からは矢板中央高校に女子サッカー部が創部されるので、少しずつリーグ戦に参加するチームが増えてくると思います。次年度以降、切磋琢磨できるリーグ戦が展開されるよう、運営に尽力を尽くしたいと思います。

<1部リーグ>

	文星女子	宇短附	宇女	白鷗足利	ヴェルフェ矢板	勝点	勝	分	負	得点	失点	得失	順位
文星女子		● 0 - 1	○ 3 - 2	○ 1 - 0	△ 0 - 0	7	2	1	1	4	3	+1	2位
宇短附	○ 1 - 0		○ 7 - 0	○ 3 - 1	○ 8 - 0	12	4	0	0	19	1	+18	1位
宇女	● 2 - 3	● 0 - 7		● 0 - 3	○ 2 - 1	3	1	0	3	4	14	-10	4位
白鷗足利	● 0 - 1	● 1 - 3	○ 3 - 0		○ 3 - 2	6	2	0	2	7	6	+1	3位
ヴェルフェ矢板	△ 0 - 0	● 0 - 8	● 1 - 2	● 2 - 3		1	0	1	3	3	13	-10	5位

※5位は、次年度2部リーグへ

<2部リーグ>

	宇中央	大女	小山城南	翔南・益子 佐東・鹿沼	作新学院	栃木女子	勝点	勝	分	負	得点	失点	得失	順位
宇中央		○ 4 - 0	○ 1 - 0	○ 8 - 0	○ 3 - 0	○ 12 - 0	15	5	0	0	28	0	+28	1位
大女	● 0 - 4		● 0 - 4	○ 5 - 0	△ 1 - 1	△ 0 - 0	5	1	2	2	6	9	-3	3位
小山城南	● 0 - 1	○ 4 - 0		○ 12 - 1	○ 2 - 1	○ 5 - 0	12	4	0	1	23	3	+20	2位
翔南・益子 佐東・鹿沼	● 0 - 8	● 0 - 5	● 1 - 12		● 0 - 5	○ 2 - 1	3	1	0	4	3	31	-28	5位
作新学院	● 0 - 3	△ 1 - 1	● 1 - 2	○ 5 - 0		棄権 5 - 0	7	2	1	2	12	6	+6	4位
栃木女子	● 0 - 12	△ 0 - 0	● 0 - 5	● 1 - 2	棄権 0 - 5		-2	0	1	4	1	24	-23	6位

※1位は、次年度1部リーグへ

棄権：勝点-3点、0-5扱い

定通部サッカー2022年を 振り返って

栃高体連定通部サッカー種目専門委員
館野 光徳

今年度は6月に栃木県高等学校定時制通信制総合体育大会、7月から8月にかけて全国大会、11月に栃木県高等学校定時制通信制秋季大会、関東地区高等学校定時制通信制サッカー大会と、各大会がコロナ禍の中で制限付きではありましたが、無事に例年通りの日程を終えることができました。

定時制通信制総合体育大会の栃木大会では、学悠館が7年連続で優勝し、全国大会に出場しました。その全国大会では、山梨県代表の甲府工業と戦い、惜しくも0-2で1回戦敗退となりました。また、秋の秋季大会では出場チームが1チームしかなく、今年は本県開催の関東大会に学悠館が出場しましたが、埼玉県代表の日々輝学園に1-4で敗退という結果に終わりました。

他都道府県に比べると年々定時制通信制のサッカー人口やチーム数が減っており、栃木県大会の運営が難しくなっているのが現状です。競技力向上のためにもまずは、各チーム部員数を増やすことなどが今後の大きな課題と感じた1年でした。

最後になりましたが、栃木県サッカー協会をはじめ、栃木県大会から全国大会まで関わってくださった全ての方々に感謝し、御礼申し上げます。



令和4年度 第61回栃木県高等学校定時制通信制 体育大会サッカー競技結果

期日 2022年6月18日

学悠館

3 — 2

宇都宮工業

科学技術学園宇都宮

0 — 8

宇都宮工業

学悠館

12 — 0

科学技術学園宇都宮

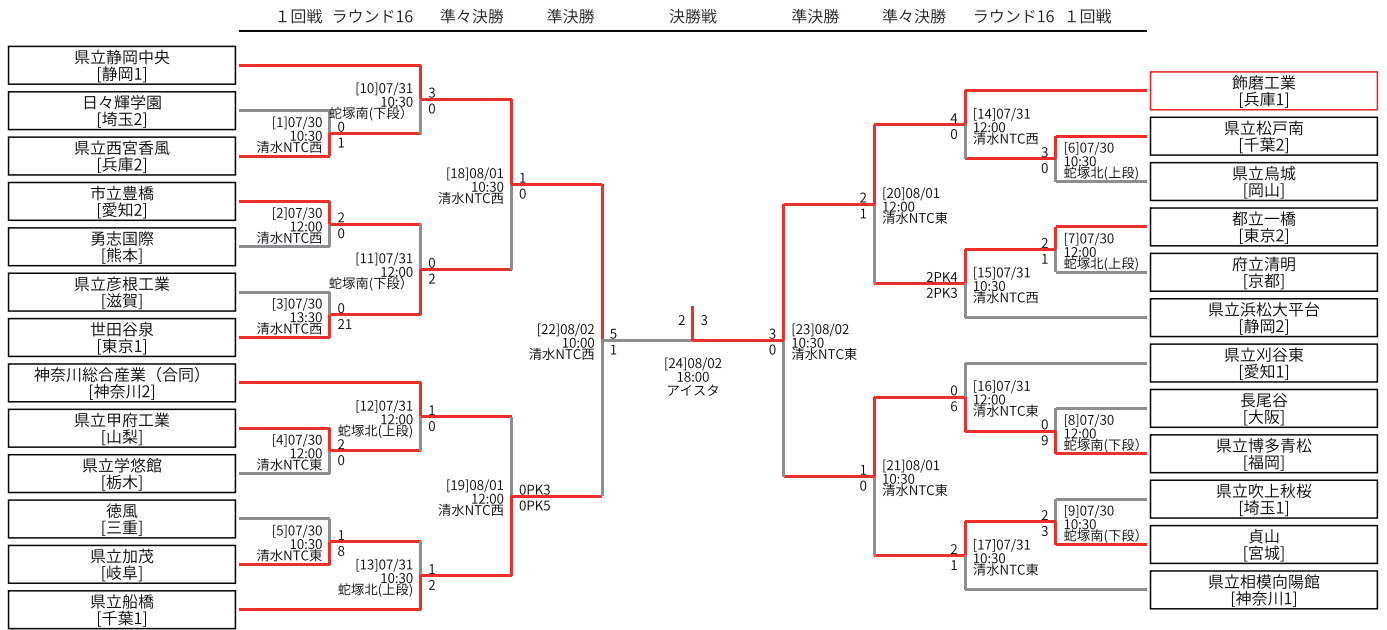
1位 学悠館

2位 宇都宮工業

3位 科学技術学園宇都宮



令和4年度 全国高等学校定時制通信制体育大会 第32回サッカー大会



令和4年度 第37回関東地区高等学校定時制通信制サッカー大会

優 勝	日々輝学園 横浜校	神奈川
準 優 勝	甲府工業	山梨
第 3 位	日々輝学園 さいたま	埼玉
第 3 位	クラーク記念国際	千葉

会 場	野木町総合運動公園サッカー場
	下都賀郡野木町佐川野916



日	時刻	試合番号	対戦校	スコア	対戦校
11/26 (土)	10:00	①	日々輝学園 さいたま	4 - 1	学 悠 館
	11:30	②	日々輝学園 横浜	4 - 3	吹 上 秋 桜
	13:00	③	一 橋	1 - 2	クラーク記念国際
	14:30	④	甲 府 工 業	1 - 4 PK 3	相 模 向 陽 館
11/27 (日)	10:00	①	日々輝学園 さいたま	0 - 2	甲 府 工 業
	11:30	②	クラーク記念国際	1 - 4 PK 5	日 々 輝 学 園 横 浜
	14:00	③	甲 府 工 業	0 - 1	日 々 輝 学 園 横 浜

第4種委員会・少年連盟

第51回栃木県
U-10サッカー選手権大会

栃木県少年サッカー連盟 記録広報委員長
平野 康男

10月15日・16日・22日の3日間にわたって、さくら市SAKURAグリーンフィールド、塩谷町総合公園、日光市塩野室運動公園など県内8会場において、96のチームがU-10の頂点を目指して熱戦を繰り広げました。

本大会は、初日3チームでリーグ戦を行い、勝ち上がった32チームが2日目以降の決勝トーナメントに進みました。熱い戦いを制して、大会3日目の準決勝まで勝ち進んだのは、宇河地区の栃木サッカークラブU-10、S4スペランツァ、塩南地区のヴェルフェ矢板U-10vert、下都賀地区のJFC Wingの4チームでした。

決勝のステージに駒を進めたのは、栃木サッカークラブU-10を2-0で破ったヴェルフェ矢板U-10vertと、JFC Wingを5-1と圧倒したS4スペラン

ツァの2チームでした。

決勝では、ヴェルフェ矢板U-10vertの攻撃が冴えを見せ、前半に1点、後半に2点と確実に得点に結びつけました。ヴェルフェ矢板U-10vertは、S4スペランツァを3-0で破り、参加した全96チームの頂点に立ちました。



第3位 栃木サッカークラブU-10



第3位 JFC Wing



優勝 ヴェルフェ矢板U-10vert



準優勝 S4スペランツァ

JFA第46回全日本U-12
サッカー選手権大会栃木県大会



昨年度、新型コロナウイルス感染症の影響により縮小開催されていた本大会でしたが、今年度は11月5・6・12・19・23日の5日間にわたり、県総合運動公園、県グリーンスタジアムサブグラウンド、真岡市総合運動公園運動広場、佐野市運動公園ハートフル保険フィールド他9会場において145チームが参加して行われました。

激しい戦いを乗り越え4日目の準決勝に勝ち進んだのは、両毛地区の御厨フットボールクラブ、宇河地区の栃木サッカークラブU-12、TEAM リフレSC、塩南地区のヴェルフェ矢板U-12・fleurの4チームでした。

準決勝を勝ち抜き、決勝に進んだのは昨年に続き2年連続となる2チーム、栃木サッカークラブU-12とヴェルフェ矢板U-12・fleurでした。

決勝は、今年も1点を争う激しい戦いとなりました。前半は、両チームとも得点できず0-0でしたが、後半に貴重な1点をあげたヴェルフェ矢板U-12・fleurが、1-0で勝利を収めました。ヴェルフェ矢板U-12・fleurは、2年連続4度目の全国大会出場となりました。



3位 TEAM リフレSC



3位 御厨フットボールクラブ



優勝 ヴェルフェ矢板U-12・fleur



準優勝 栃木サッカークラブU-12

第40回栃木県U-11サッカー選手権大会 JA全農杯の部・U-11大会の部



1月7日・9日・14日・21日、の4日間わたり、真岡市総合運動公園運動広場、栃木県グリーンスタジアムサブグラウンド、SAKURAグリーンフィールドなど県内9会場において開催されました。JA全農杯の部には13チームが参加し、U-11の部については昨年度の48チームから参加枠を大きく広げ113チームが参加しました。

JA全農杯の部

3ピリオドを勝ち抜き準決勝に進んだのは、宇河地区の栃木サッカークラブU-12、下都賀地区のFC VALON、北那須地区の那須野ヶ原FCボンジボーラ、塩南地区のヴェルフェ矢板U-12の4チームでした。

決勝は、共に得点を積み重ね安定した試合運びを見せてきた栃木サッカークラブU-12とヴェルフェ矢板U-12の組合せとなりました。試合は両チームともに、3ピリオドで勝敗がつかず、延長戦までもつれました。延長戦1-0で勝利をつかんだのは栃木サッカークラブU-12でした。上位2チームは「JA全農杯 全国小学生選抜サッカー IN関東」への出場権を獲得しました。



3位 FC VALON



優勝 栃木サッカークラブU-12



準優勝 ヴェルフェ矢板U-12



3位 那須野ヶ原FCボンジボーラ

U-11の部

大会は、1日目は最多113チームによるリーグ戦、2日目からはトーナメント戦となりました。激戦を勝ち抜き3日目の準決勝に進出したのは、宇河地区のunion sports club、塩南地区のヴェルフェ矢板U-12、下都賀地区のFCがむしゃら、両毛地区のCA. アトレチコ佐野4チームでした。

決勝は、準決勝でヴェルフェ矢板U-12を接戦の末に破ったunion sports clubと、FCがむしゃらから6得点をあげ快勝してきたCA. アトレチコ佐野の組合せとなりました。試合は、1点を争う好ゲームとなり、CA. アトレチコ佐野が3-2で優勝の栄冠をつかみ取りました。



第51回栃木県 U-12少年サッカー選手権大会



優勝 CA. アトレチコ佐野



準優勝 union sports club



3位 FCがむしゃら



3位 ヴェルフェ矢板U-12



新型コロナウイルス感染症の影響で3年ぶりの開催となる本大会は、2月11日・18日・19日・23日の4日間にわたり、真岡市総合運動公園運動広場、さくら市SAKURAグリーンフィールド、栃木県グリーンスタジアムサブグラウンドなど県内13会場において、157チームがU-12の頂点を目指した戦いを繰り広げました。

初日のリーグ戦を勝ち抜いた52チームが2日目のトーナメント戦に駒を進めました。大会4日目の準決勝まで勝ち進んだのは、宇河地区のTEAMリフレSC、栃木サッカークラブU-10、北那須地区のFC Avance BLANCO、下都賀地区のFC VALONの4チームでした。

準決勝では、TEAMリフレSCが栃木サッカークラブU-12を3-1と退け、FC VALONはFC Avance BLANCOに4-0と完勝し、それぞれ決勝のステージに進みました。

決勝は、TEAMリフレSCが堅いディフェンスから前線へとボールを繋ぎ、FC VALONを圧倒しました。前半2点、後半2点と得点を重ねたTEAMリフレSCは4-0で勝利し、U-12選手権大会初優勝の栄冠に輝きました。



優勝 TEAMリフレSC

女子委員会・連盟

U-15足利地区の取り組みについて

足利・両毛ROSA FC 加藤玲子

足利・両毛ROSA FCは県南西部の両毛地区にて活動するU-12、U-15、レディースの世代からなるチームです。今年で創立11年となりました。この度は栃木県サッカー協会広報誌へ寄稿の機会を頂戴いたしましたこと、心より感謝申し上げます。

私自身は2006年より栃木県少年サッカー連盟両毛地区の女子トレセンの活動に携わる様になり4種世代の女子選手との関わり方について現場で試行錯誤を続けてまいりました。

当時は、各少年チームの選手の登録人数も多く小学生の男子・女子の成長段階の違いや様々な要因もあり、学年が上がるほどにゲームに出られずベンチに座って過ごす時間が多くなる女子選手について普及や育成、また女子選手自身のモチベーションを上げる事に苦労された指導者も多かったように思います。

そんな中、女子トレセンでの活動では選手達が普段任された事もないポジションを経験したり、女子同士ならではのチームの楽しさを知る機会にもなりました。各選手の保護者にとっても、4種として男子と共に活動をしている時と女子トレセンのチームで活動している我が子の違いに色々な事を感じられたかと思います。普段自分のチームでは局面で男子頼みになっていたり、男子の中の自分(女子)だから、と言いつに本当の力を発揮出来ずにプレーしていた子もいました。それが言いつなしの女子同士の試合で本気を引き出され、伸びていく選手も沢山見てきました。その事は当時4種での女子トレセンの最大のメリットであったと思います。

勿論、良いことばかりではありませんでした。ある指導者からは、選手を女子トレセンに出すと「女の子になって帰ってくるのが困る」等と言われた事もあります。その言葉の意味は、未だに理解しかねます。

女子だからと言って特別扱いは必要ありません、しかし、女子はどんなに幼くても「女子だと認識してアプローチする必要」があると考えます。指導の上で必要な事を選手に伝える時にも、指導者による丁寧な説明や態度、見届ける姿勢が選手との信頼関係を築きます。勿論、このような場所で改めて言う迄もなく4種指導者の皆様は普段から



準優勝 FC VALON



第3位 栃木サッカークラブU-12



第3位 FC Avance BLANCO



実践されている事と思いますが、男子と女子をひくくめるための指導の現場にありがちな落とし穴があることを、練習の合間の女の子達の会話などから学び、また男子選手にも、その特性に配慮する必要があるかと思えます。

女子トレセンの活動を通し両毛地区女子サッカーの活性化、トレセンそれぞれの学年の成熟によって次のカテゴリーへの期待が大きくなってきた頃、チームを創立するきっかけとなった一つに、その前年度に開催された2011年ワールドカップ日本代表ナデシコJAPANの悲願の優勝という大きな追い風が起きました。

同年3月に起こった未曾有の自然災害『東日本大震災』によって先の見えない暗い雰囲気が日本中に漂っていた頃です。

なでしこJAPANの優勝によって日本中は感動に溢れ、代表選手らは帰国後、所属チームや出身地、母校などに凱旋しました。宇都宮市出身の安藤梢、鮫島彩両選手が栃木県から県民栄誉賞を贈られるなど、地元から大歓迎を受けました。子供達のすぐそこに憧れの選手達が現れたのです。子供達の顔つきが変わったのを今でも覚えています。

そして女子サッカーのメジャー化が進みました。

長く苦勞されてきた日本代表選手や関係者が地道に御苦勞や御尽力を重ねてこられた事を想像すると、結果が全てを物語るのだ、とも思いました。

この事はどれほど女子サッカーを愛する人々に夢を与えてくれたのでしょうか。そしてその背中を追いかけて良いんだ、という夢が確信に変わった時のように思います。

その様な世の中の気運の高まりから「地元には是非少年女子の次の受け皿となる、カテゴリーのチームの創立を」と足利市サッカー協会の方々から声が上がったのです。私はその時も両毛女子トレセンの運営を担っておりましたので「女子のチームなら組織に加わって欲しい」とお声を掛けて頂きました。

当時の中学校と言えば生徒は部活動に所属するものという観念があり、いざクラブチームを始めてみると部活ではないクラブチームの活動に不安を感じる選手を集めるのに苦勞し、また新たな活動の拠点となる会場確保等課題も多くありました。足利市サッカー協会からも沢山のご心配をいただきました。不安もありましたが関わってくださる方々にその様にお心を寄せていただくことがどれほど私たちの力になったか知れません。

またジュニアユース創立から2年遅れてジュニアの女子チームも発足する事になりました。中学世代

に選手を繋げるためにも小学生の女子チームの必要性を実感したのです。

選手達と関わるうちに家庭内に不安がある、学校生活に不安がある、基礎疾患がある、様々な事情があることが見えてきます。遠くのクラブチームまで通えない選手達が、それでもサッカーを続けたい気持ちを知っていくこととなりました。

問題解決の為に女子選手の中体連の所属について中学の教員の皆さんと交流したり、小学生高学年への学校巡回指導や高校へのアプローチ等考えては行動しながらその時の問題解決に取り組んでまいりました。

地元の白鷗高校の増田能人先生には創立当時より大変お世話になりサッカーの試合が組めない人数の時は、2チーム合同にて試合を組んでいただき沢山の経験をさせて頂きました。夏休み期間の日中の練習等も快く選手を受け入れてくださりとても感謝しております。地元で女子サッカーのそれぞれのカテゴリーが揃っている事は大きなアピールポイントだと思っております。現在もチームの選手の次のカテゴリーでの活躍の場を増田先生に頂いている関係でおります。

チーム創立から11年となり、地元を離れ遠く寮生活してでも進学先を選ぶ選手も現れる一方、様々な事情から地元だからこそサッカーが続けられる選手も居ます。

活動の幅を拡げて一年、一年と年を重ねるうち選手達の次の進路が他地区へ移っても、足元を見れば「ここにあるからサッカーが続けられるチーム」が、このチームの存在意義であることになりました。やがて学生が終わって社会人になってチームにまた戻ってきた選手も登録する様になってまいりました。

今回、この記事の依頼を頂戴いたしましたのも、2022年第18回栃木県女子ユース（U15）サッカー選手権大会において優勝という結果を受けてのことです。

栃木県サッカー協会、女子連盟の皆様はじめ、足利市サッカー協会の皆様、今まで応援くださった4種・中学・高校の指導者の皆様、まだまだ浅いながらも歴史を作ってくれた選手達、フットサル連盟の皆様、沢山の応援をくださった地元企業の方々との関わりの中で幸運にも今年一つの成果を見ることが出来ました。

その成果の為に、選手達の事を大切に育成してくれたローザのチームスタッフと足利なでしこSCの

監督である、板橋稔氏にはこれまで多くの困難を共に乗り越えてきた私にとっても、チームにとってもかけがえのない盟友であります。それらの人々と、また私どもに関係くださった多くの皆様にこの場を御借りしまして感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

withコロナの昨今、10年以上前の常識は様変わりして私どもの身の回りも現場の困り事も変化しています。求められるニーズをキャッチし続け、世代ごとの課題、全女性の生涯支援を考えるとともにサッカーをツールとした女子の健全育成を目標として、また次の世代に託したいと考えています。

チームの存在意義を忘れず、今後もローザだから出来る事を模索しつつ活動を進めてまいりたいと思います。

公式戦出場目指して始動 白鷗大に女子サッカー愛好会

昨年6月、栃木県女子サッカーリーグ参戦を目指して、小山市の白鷗大に女子サッカー愛好会が誕生しました。選手たちは現在、同校グラウンドで週1回の練習に励みながら公式戦で戦う日を夢見てボールを追っています。2023年度からの参戦は見送られましたが、関係者は近い将来の目標達成に向けて熱意を高めています。チームを始動する田中航大さんと、サークル結成の発起人でもある新3年生の志村菜々子さんに思いを伺いました。

田中さんの話 現在は白鷗大に勤務しながら、チームを指導しています。通常は10人前後の選手が集まり、練習を重ねているところです。学生たちの「リーグ戦に出たい」という思いの実現や、大学生活の仲間づくりの基盤ができるようさまざまな面からサポートしています。練習メニューも提供はしていますが、基本的には学生たちがやりたいことを話し合っ決めてるようにしていて、主にはボール回しやポジションの練習などで技術を高めています。

チームは高校女子サッカーの経験者がほとんどですが、熱心な初心者の頑張りも目を引きます。新型コロナウイルス禍での愛好会立ち上げということで、少なからずその影響は受けましたが、練習が継続できたことでここまでたどり着くことができました。先日は立教大女子サッカー部と合同練習をするなど、これまでにない取り組みなども始めました。公式戦参戦が実現するまで、選手と共に頑張りたいと思っています。



▲白鷗大女子サッカーサークルの選手たち

志村さんの話 高校時代は白鷗大足利高でプレーしていました。白鷗大進学と同時に1度はサッカーから離れましたが、もともと体を動かすのが好きで、しばらくして「サッカーをまたやりたい」という気持ちが膨らんできました。

田中さんに相談をして、サークルを立ち上げるために動き始めました。2年生になって友達のつながりなどから選手を集め始め、昨年6月に8人が集まり活動をスタートさせました。参加率があまり伸びていないことが課題ではありますが、現在は16人がメンバーに名を連ねています。初心者のために基礎練習などを盛り込みながら練習を重ねています。

私の大学生活はあと2年ですが、目指しているところは学内でチームを部活動に昇格させて、公式戦へ出場していくことです。「その時」が来る日まで頑張っていきたいです。



クラブユース連盟

クラブユースサッカー連盟より

副会長 根岸誠一



2022年度の登録数は…
U-18が2チーム・U-15が30
チームとなりました。

【U-18】

- ・高円宮杯栃木ユースU-18リー
グ…

1部では、栃木SCU-18が全勝で1位となり、
プリンスリーグ関東2部のプレーオフで八千代
(千葉)に1-0で勝利し、昇格となりました。
2部では、栃木シティFC U-18は5位。

- ・JCY選手権U-18関東大会では…
栃木シティFCU-18はグループステージ敗退。
栃木SCU-18はグループステージ1位通過、ノッ
クアウトステージ1回戦で、ジェフユナイテッド
千葉に1-2で惜敗。
- ・TownClubCupU-18では…
栃木シティFCU-18がグループステージを2位
で通過、代表決定戦1回戦で東急レイエスに敗
退。

【U-15】

- ・高円宮杯関東ユースU-15リーグ2部Aでは、栃
木SCU-15が10位となり、県リーグに降格。
- ・高円宮杯栃木ユースU-15リーグ…
1部では、ウイングスSCが1位となり、関東参
入戦で湘南ベルマーレEASTにPK戦の末敗れ、
昇格できませんでした。
- ・JYC選手権 栃木県予選では…
優勝ウイングスSC 2位那須野ヶ原FC 3位ヴェ
ルディ小山 4位矢板SC。(関東大会に出場)
- ・JYC選手権 関東大会では…
栃木SCU-15が代表決定戦で勝ち上がり全国の
切符を獲得。ウイングスSCを始め4チームは1、
2回戦で敗退。
- ・JYC選手権大会(帯広)では…
栃木SCU-15がグループリーグを2位で決勝トー
ナメントへ。1回戦でAS長野パルセイロにPKで
惜敗。
- ・高円宮杯関東大会には…
関東リーグの栃木SCU-15と代表決定戦でウイ
ングスSC、矢板SC、那須野ヶ原FC、足利・両
毛ユナイテッドFCが出場。
ウイングスSCが2回戦で敗退。4チームは1回

戦で敗れました。

- ・ラストゴール杯では…
優勝ともぞうSC 準優勝FC栃木。
- ・U-13関東リーグでは…
1部A栃木SCU-13が5位。2部Cウイングス
SC 5位の成績となりました。
- ・U-13栃木リーグは2月まで開催しております。
2022年から続くコロナ禍の中、試合も含め会議
等いろいろ試行錯誤しながら行ってきました。
2023年シーズンは、栃木SCU-18が関東プリ
ンスリーグに参戦しますが、U-15は関東リーグが
0になります。なかなかリーグ戦も含め関東大
会で結果を残せていないので、2023年シーズン
こそ、結果を残せるよう、そして、関東リーグ
に参戦できるようにしていきたいと強く願います。

2022年度大会結果

◆高円宮杯栃木ユース(U-15)サッカーリーグ

- 優勝 ウイングスSC
- 準優勝 那須野ヶ原FCボンジボーラ
- 3位 ヴェルディSS小山

◆第28回関東クラブユースサッカー選手権(U-15)
大会 兼 第37回日本クラブユースサッカー選手
権(U-15)大会・栃木県予選

- 優勝 ウイングスSC
- 準優勝 那須野ヶ原FCボンジボーラ
- 3位 ヴェルディSS小山

◆高円宮杯第34回全日本ユース(U-15)
サッカー選手権 関東大会代表枠決定戦

- 優勝 ウイングスSC
- 準優勝 矢板SC
- 3位 那須野ヶ原FCボンジボーラ

◆第19回栃木県クラブユースサッカー連盟
ラストゴール杯

- 優勝 ともぞうSC
- 準優勝 F.C. 栃木ジュニアユース
- 3位 union sc

シニア委員会・連盟

JFA 第23回全日本O-60サッカー大会関東地区予選会

【開催日】	11月19日(土)・20日(日)		
【会場】	埼玉スタジアム2002 第2、第3、第4グラウンド		
【栃木県代表チーム】	とち丸シニアサッカークラブ		
【試合結果】			
Aブロック	とち丸シニアサッカークラブ	1-0	山梨シニア(山梨県)
	とち丸シニアサッカークラブ	0-2	ドリーム水戸シニアFC(茨城県)
	とち丸シニアサッカークラブ	0-1	PET60(東京都)
	とち丸シニアサッカークラブ	[1勝2敗]	
順位決定戦	とち丸シニアサッカークラブ	0-2	習志野台クラブシニア(千葉県)
	とち丸シニアサッカークラブ	第6位	

JFA 第17回全日本O-70サッカー大会関東地区予選会

【開催日】	11月19日(土)・20日(日)		
【会場】	神奈川県立スポーツセンター		
【栃木県代表チーム】	栃木大昭サッカークラブ		
【試合結果】			
Aブロック	栃木大昭サッカークラブ	1-3	アスレチッククラブちば(千葉県)
	栃木大昭サッカークラブ	2-0	茅ヶ崎シニア70(神奈川県)
	栃木大昭サッカークラブ	2-0	茨城シニア70(茨城県)
	栃木大昭サッカークラブ	[2勝1敗]	
順位決定戦	栃木大昭サッカークラブ	2-0	埼玉シニア70(埼玉県)
	栃木大昭サッカークラブ	第5位	

KTFA 第16回関東O-50サッカー大会

【開催日】	12月3日(土)・4日(日)		
【会場】	ひたちなか市総合運動公園 陸上競技場/スポーツ広場A		
【栃木県代表チーム】	栃木EIKOH O-50		
【試合結果】			
Aブロック	栃木EIKOH O-50	1-4	横浜シニア50(神奈川県)
	栃木EIKOH O-50	0-2	FC大泉50(群馬県)
	栃木EIKOH O-50	1-2	千葉四十雀SC・50(千葉県)
	栃木EIKOH O-50	[3敗]	
順位決定戦	栃木EIKOH O-50	2-0	山梨シニア(山梨県)
	栃木EIKOH O-50	第7位	

KTFA 第16回関東O-40サッカー大会

【開催日】	12月10日(土)・11日(日)		
【会場】	駒沢公園第二球技場・補助競技場		
【栃木県代表チーム】	ヴェルフェシニア40		
【試合結果】			
Bブロック	ヴェルフェシニア40	1-1	真砂40(茨城県)
	ヴェルフェシニア40	0-2	FCトキガネ(千葉県)
	ヴェルフェシニア40	3-1	FC伊勢崎ジラーフシニア(群馬県)
	ヴェルフェシニア40	[1勝1分1敗]	
順位決定戦	ヴェルフェシニア40	0-4	HTK Albiceleste(東京都)
	ヴェルフェシニア40	第4位	

技術強化委員会

第77回いちご一会
栃木国体を終えてU-16栃木県選抜ヘッドコーチ
神山和泰

第77回いちご一会栃木国体が、関係者の皆様の御尽力により開催されたことに対し、改めて感謝申し上げます。

私たち、U-16栃木県選抜は、地元開催の国体に向けて、1年間チーム作りをしてきました。本大会では、準々決勝で大阪府選抜に敗れ、第5位という成績で幕を閉じました。

私たちの試合には、多くの県民の皆様が応援に駆け付け、声援を送っていただきました。声援を力に変え、選手たちは、持っている力を最大限に発揮してくれました。

U-16栃木県選抜のチーム編成には、多くの選手が参加した選考会を重ね、最終的に28名の選手を選考し、本大会には16名の登録選手、12名のバックアップメンバーで臨みました。

チームの立ち上げから、最も意識してきたことは、「サッカーの本質を追求すること」つまり、ゴールを目指し、ゴールを奪うこと、ゴールを守り、ボールを奪うことです。サッカーをやっている以上当たり前のことのように思いますが、これがなかなか難しいと感じながら日々のトレーニングを積み重ねてきました。選手たちはもちろん、ゴールを目指し、ゴールを守ることを「サッカー」の中で表現しようとしていました。しかし、私たちが求めたものは、より早く、より多く、より強くということでした。これらは、完成することはありません。ですから、日々のトレーニング、数々のトレーニングマッチでは、「今以上に」ということを求め続けました。

トレセンマッチデーでは、予選リーグ、順位決定の4試合全て全敗、遠征に行っても、勝つことより負けることの方が多く、自信を失ってしまうようなこともありました。しかし、毎試合毎試合、少しずつ良くなっている、選手それぞれの持ち味を少しずつ出せるようになってきているという感覚がありました。

サッカーは、チームスポーツです。攻撃でも守備でも何としても「ゴールを奪う」、「ゴールを守る」という気持ちが芽生えてくると、仲間を助

けるプレーをするようになります。それが、連続性のある攻撃、連動した守備につながると考えていました。

これまでのトレセンマッチやトレーニングマッチでも、個の能力では、劣っている部分もあったのは否めません。ただ、だからと言って、栃木県の選手が通用しないとは考えていませんでした。それぞれの持っている力を最大限に発揮し、それぞれの良さを出し、チームで戦えば勝利を手にすることができるかと信じていました。

本大会では、登録メンバーが16名に限られており、残念ながら最終登録メンバーから外れてしまった選手がバックアップメンバーに回りました。メンバー選考には、大変苦労しました。様々な試合状況を想定し、それぞれの選手の特徴をどのように生かせるかを考え、コーチ陣で議論を重ね、選考をしました。本大会の結果は、登録メンバーだけでなく、バックアップメンバーも含めた28名が一つのチームになれたことが要因の一つであると確信しています。

試合後に、応援に駆けつけてくれた地元の小中学生が大きな拍手と声援を送ってくれました。選手たちは、純粹に喜んでいました。私は、選手たちに「君たちの一生懸命なプレーが、応援に駆けつけてくれた人の心を動かしたんだ」と言ったのを覚えています。

国体は、日本最大のスポーツの祭典です。それは、障がい者スポーツ大会も同じです。スポーツの力を感じた大会でした。選手たちの可能性を感じた大会でもありました。日々の活動、一つ一つの試合、一つ一つの直向きなプレーの積み重ねの大切さを感じた大会でもありました。

これまで、多くの皆様に御協力をいただき、また、保護者の皆様に支えられながら活動することができました。改めて感謝申し上げます。栃木県でサッカーに携わる皆様、これからも、子どもたちの可能性を信じながら、栃木のサッカーを強くしていきましょう。



いちご一会とちぎ国体活動報告

栃木県トレセンU16女子
主務 前田隆志

今年度、栃木県トレセンU16女子の主務を務めました前田隆志です。いちご一会とちぎ国体で初めて行われました、サッカー少年女子カテゴリーの大会結果およびそれに向けての活動報告についてさせていただきます。

1. チーム方針

- ・とちぎ国体での目標：ベスト4
- ・チームコンセプト：カウンター

4月2日・3日の2日間でチームとして求めるプレー（カウンターアタックの映像）の確認等をおこなった。3月27日も含めた3日間で栃木県トレセン女子U-16（ラージグループ）としての選手を選考した。選考後の練習では今までの県トレセン（U-13、U-14）とは内容を変え、チームとしての練習（チーム戦術）をより多く行った。具体的にはビルドアップの方法（ローテーション）、ハイプレスの方法（ウイングプレス、インサイドハーフプレス）、セットプレーの攻撃、守備（配置、役割）などチームとしての狙い（チーム戦術）を共有しつつ、カウンターアタックを行う為のポイントやバイタルエリア付近での攻撃クロスや攻防などグループ戦術にも同時に取り組んだ。また、ヘディングや胸コントロールといった浮き球に対するプレーも継続して取り組んだ。



○JFAアカデミー福島との合同練習

2. 本国体の様子

(1) 1回戦 新潟県 @緑新スタジアムYAITA
(矢板運動公園陸上競技場)

■戦い方

【守備】基本的にボールにプレッシャーをかける。押し込まれたらブロックを作る

【攻撃】スペースを見つけて素早く出ていく

■結果 合計 1-0（前半 1-0・後半 0-0）

(2) 2回戦 埼玉県 @矢板運動公園サッカー場

■戦い方

【守備】基本的にボールにプレッシャーをかける。押し込まれたらブロックを作る

【攻撃】スペースを見つけて素早く出ていく

・カウンター（守備→攻撃）

・疑似カウンター（攻撃）

■結果 合計 0-0
(前半 0-0・後半 0-0 PK 5-6)

■所感

本大会の2試合ともに、大方プラン通りの展開で試合を運ぶことができた。ただ2回戦の埼玉戦では、自分達の武器であるCKを1本も獲得できなかったのが残念だった。CKを獲得することができていたら、結果は変わっていたかもしれない。（相手は栃木県のCKを警戒し、CKを与えないように注意しながら守備をしていた。）

結果、準々決勝で敗退し、5位という結果で終了してしまっただが、最初に選手達に伝えた、【色々な人の想いを背負ってプレーする！】という一番大事にしていたことを全選手が全力で表現してくれた。

負けが決まった瞬間、悔しい気持ちと同時に逞しく成長した選手達を誇りに思ったし、泣き崩れるチームメイトに駆け寄りベンチメンバーの姿を観て【本当に良いチームになったな。もう少しこのチームで試合をしたかったな。】と強く思った。

とちぎ国体に向けて全員が本気でサッカーと向き合い、真剣に取り組んできたということが、試合後の選手達の姿から十分に伝わってきたし、結果は残念だったが、この経験が彼女達の今後のサッカー人生にとって絶対にプラスになると確信した瞬間でもあった。選手達の頑張りによって自分自身も貴重な経験をさせてもらった。本当に感謝している。



○埼玉戦後の集合写真

3. 成果と課題

☆攻撃

【成果】

- ・ゴールに向かう意識を強く持てた
- ・スペースを共有することができた

【課題】

- ・ボールを保持することができなかった
(判断を伴った基本技術をもっと向上させないといけない。疑似カウンターは一度も行えなかった。)
- ・フィニッシュの精度が低かった

☆守備

【成果】

- ・考えながらハードワークをすることができた

【課題】

- ・高い位置でボールを奪う回数が少なかった

☆セットプレー

【成果】

- ・練習したCKから得点を奪うことができた (パターンの共有と理解、2ndボールへの反応)
- ・数多くあったCKの守備をしっかりと守ることができた

【課題】

- ・スローインの精度 (マイボールのスローインを簡単に相手に渡してしまう場面が目立。)

☆その他

【成果】

- ・浮き球の対応をしっかりと行えた (継続してヘディングや胸コントロールの練習を行ったことで浮き球の対応が上手になった。)

【課題】

- ・選手によってサッカーに対する意識に差があり、辞退者が数名出てしまった
- ・選手によってサッカー理解に差がある (原理原則、個人戦術等)

■所感

チーム立ち上げから国体までの約半年間、様々なことがあった。関東トレセンリーグでは3戦全敗。練習試合も毎試合失点し、負けが続く中、選手もスタッフも本当に根気強く、本気でサッカーと向き合い、真剣に取り組んでいた。

結果は目標にしていたベスト4には届かなかったが、国体で初めて無失点で試合を終えることができた。それも、2試合連続(140分間無失点)。※少年女子の16チーム中、無失点は栃木県のみ。

高校生が中心の新潟県や埼玉県を相手に中学生が多い栃木県(高校生4名、中学生11名)が2試合完封したことはとても素晴らしいことだと思う。内容は2試合とも劣勢だったが、その中でも常に集中し、常に全力でプレーしていた。また、ただゴールを守るだけではなく、積極的にボールを奪いに行く姿勢や奪った後に素早く相手ゴールへ向かう姿勢は本当に素晴らしかった。この半年間で選手達は本当に大きく成長したと思う。

今回のこの結果はチームとして一つにまとまったことが一番の要因だと思うが、国体が栃木県開催ということで予選が免除されていたことも大きかったと感じている。本来なら予選を勝ち抜く為に8月までにチーム作りをしなければならない所を10月の本国体に向けてチーム作りをすれば良かった為、時間的に余裕があった。次年度は8月に関東の熾烈な戦いを勝ち抜かなければならない為、今年以上にチーム作りも大変になってくると思う。

また、今回の大会で登録された選手15名(高校生4名、中学生11名)のうち、次年度、栃木県代表としての条件を満たしているのは3名(新高校2年生早生まれ1名、新高校1年生2名)のみ。中学生11名のうち9名が県外の高校に進学する予定となっている。これは毎年のことだが、栃木県の課題でもあると感じている。毎年、高校進学と同時に県外へ出て行ってしまいう選手が多く、栃木県として、選手の流出を抑えることが栃木県代表

の強化に繋がると思っている。栃木県の女子サッカーを発展させる為にも多くの選手が栃木県に残り、栃木県を盛り上げてほしいと願っている。

4. 結びに

42年ぶりの栃木県開催、少年女子カテゴリー初年度の国体と大きなプレッシャーを背負った中で、選手・スタッフともに最高のパフォーマンスを発揮することができた。このような結果を残すことができたのも、多くの方々の支えがあったからだ実感しております。選手を派遣して下さった各チームの監督・スタッフの方々、遠征や練習などに送迎して下さった保護者の皆様、大会運営や様々な場面でチームをサポートして下さった県協会および女子連盟、矢板市・那須塩原市の皆様に深く感謝申し上げます。まことにありがとうございました。



2日目はチーム登録していない1年生から3年生の男女を主に32名が参加しました。

1年生の男子と1年生から3年生の女子のグループと2年生と3年生の男子のグループに分かれ、ボールフィーリングのアップからドリブルシュート。4ゴールなどのゲームを行い、最後まで元気にプレーしていました。

JFAキッズエリート事業

キッズ部会長 高木 智弥

◇とちぎキッズアカデミー開催

キッズサッカーフェスティバルでは、サッカー遊びで体を動かすことの爽快さや、親子でのゲームを通して“サッカーの楽しさ素晴らしさ”を体感してもらい、サッカーの普及・浸透、更には人材の育成を図ってきました。

その中で“もっとサッカーをしたい・もう少し難しいこともしてみたい”などの声や要望を頂き、『とちぎキッズアカデミー』を2月11日・12日に、とちぎフットボールセンターで開催しました。

1日目はチーム登録している3年生の男女23名が参加しました。

前日からの雪で全面に雪が残るなか、一部雪かきをして残った部分で「雪上サッカー」を計画して開催することにしました。

残念ながら午後の開催までに雪は解けてしまいましたが、新しい可能性が見えた貴重な雪でした。

オープニングの後、アイスブレイクやドリブルでアップを行いました。その後、サッカークリニック的にボールコントロールやフェイントやパスを行い、最後にスタッフも含め、全員で6ゴールの大ゲームを3ゲーム行いました。子どもたちは、人口芝のピッチでのびのびとプレーしていました。



開催後のアンケートでは、『コーチの方々の声掛けがとても良く勉強になりました。』『個人での参加でしたが、コーチが声を掛けてくれたので友達もでき、子供も大変楽しんでプレーができました。』『学年毎だったので子供も話しやすく、打ち解けるのがスムーズでした。いつものチームとの雰囲気や練習内容との違いもあり、子供も楽しみながら、とても充実した時間でした。またこのような機会があったら参加したいです。』『子供も楽しかったとっていました。』『親としても見ていて楽しかったです。自チームでコーチをしています。指導法についても話をきちんと聞かせたり、子供同士の声かけや考えさせたりするなど参考になることがたくさんありました。』など、参加した子供たちがサッカーを始めるきっかけや続けていくきっかけになるように、今後も続けていきます。



てつくった男子のインファンチール峰FCと、娘の亮子が入る女子のアマレーロ峰FCを立ち上げ、指導者としてもよりフットサルにかかわるようになっていきました。男子はしばらくして全日本選手権の関東大会へ出場するまでになり、女子は全日本女子選手権で全国準優勝、関東女子リーグ参戦を果たすようになりました。

フットサルは魅力的な競技です。サッカーに比べてボールを多く触れますし、せまいスペースでの技術が身に付きます。公式戦は原則体育館で行われるため、天候にも大きく左右されません。5人制ということでメンバーも集めやすく、楽しくプレーできます。「いつでも、どこでも、誰とでも」ということで、非常に間口が広いスポーツです。

私が役員としてフットサルにかかわるようになり、一番の変化は競技者の増加です。1990年代は爆発的に競技人数が増えた時期もあり、ここ数年は公式戦登録者数もほぼ横ばいの450人前後で推移していることは、サッカーの競技者数が減っている中で、何とか頑張れているかなと感じています。

残った役員の皆さんや、競技者の皆さんはぜひ普及を大切にしながらフットサルにかかわってほしいと思います。公式戦やプレーができる環境の構築というのは場所の確保一つを取っても簡単ではありません。今後の競技振興のためにも、ぜひ後進の皆さんには引き続きのご尽力をお願いしたいと思っています。

8年ぶり本県チームが昇格 ブラジニアが関東女子リーグへ

フットサルにはサッカーと同様に「関東リーグ」があり、2、3月に神奈川県藤沢市で行われた関東女子リーグ参入戦・入替戦でブラジニア・フットサル・レディースが3連勝で昇格を決めました。県リーグは4連覇中で過去3年は参入戦で3年連続PK負けと悔しい思いをしてきましたが、今回、その雪辱を果たすことができました。本県チームとしては2015年に在籍したアマレーロ峰FC以来の参入で、練習拠点はもちろん選手、スタッフ全員が「栃木県民」という生粋の本県チームの昇格となります。チームを率いた福島史尊監督に話をうかがいました。

長い4年間でした。入替戦は1点リード、残り1秒でマイボールのゴールクリアランス（GKのスロー）。やっと自分や選手たちの努力が報われたと思いました。

フットサル委員会・連盟

フットサルの普及振興に貢献 宮川進委員長が勇退

2016年度から本年度まで栃木県フットサル界のトップ・フットサル委員会委員長として公式戦、普及イベントの開催に奔走してきた宮川進委員長が今春、栃木県サッカー協会の役職定年を迎え勇退されます。宮川委員長はフットサルが現在のような競技形態になる以前の「ミニサッカー」の時代から競技の普及、振興に尽力し、2006年に栃木県リーグを運営する「フットサル連盟」の副理事長に就くと、10年後に委員長に就任しました。以来、リーダーシップを発揮し、現在の本県フットサル界の礎をつくっていただきました。これまでの現場での思い出や、今後の本県フットサル界に対する期待などを語っていただきました。

私がフットサルの前身となるミニサッカーにかかわるようになったのは、宇都宮市御幸小で教員をやっていた30代半ばの頃で、当時は南米主導の国際サロンフットボール連盟（FIFUSA）が推奨するインドアサッカーやサロンフットボール、6人制のガーデンフットボールなどを中心にプレーしていた時代でした。栃木では東日本大会レベルの大きな大会が毎年行われていて、パソコンで書類を作成していたことが思い出されます。

その後、ミニサッカーが国際サッカー連盟（FIFA）主導となってフットサルへと名称が統一される中で、1990年代、宇都宮市峰小の教え子が集まっ



過去3年間は各都県リーグの代表チームで入替戦出場を争う「参入戦」でPK負けが続いていました。毎回、先制して試合を優位に進めながら、終盤で失点して、PKで敗れるという内容でした。今回、同じ過ちをしなかったのは、練習を多く積み、選手たちが自分たちの技術に自信を持てるようになったからだと思います。技術向上がボールの保持率を上げ、精神的にも自信を深める結果になりました。



▲昇格を決めたブラジニアの選手とスタッフ

参入戦決勝は東京都第1代表のリガーレヴィア葛飾。強いチームでしたが、そこで結果的に退場となりましたが、元なでしこリーガーの平野麻美がいてくれたことが大きかったです。勝負の時間帯に彼女や主力メンバーを投入し、2-2から最後は10人に及ぶPK戦を7-6で勝つことができました。入替戦は関東リーグ11位、埼玉県のアオハとの対戦でした。平野不在の戦いで、さらに前半立ち上がりには先制されるという厳しい流れになりましたが、その後、3得点で3-1。残り5分で3-3に追いつかれましたが、その直後に右サイドを駆け上がった小倉杏梨沙が相手GKと交錯しながら中央へボールを出し、最終ラインから長い距離を走ってきた主将の新屋亜莉沙がスライディングでシュートを決め4-3で勝利しました。上位チームは引き分け以上で残留が許される規定で、うちは勝つしかありませんでした。最強の東京のチームをPKで破り、引き分けが許されない入替戦で残り5分で決勝点と選手の勝負強さを感じました。

年度が変われば、すぐに関東女子リーグが幕を開けます。全てのチームが格上で、全てのチームが南関東を活動拠点とするチーム。計11試合は遠征での戦いになります。1年目は「残留」をテーマに戦っていくことになります。もちろん補強もしないといけません。フットサルに興味のある方や、「関東で戦ってみたい」という気持ちがある方は、ぜひチームを見にきてもらえればと思います。

審判委員会

RAJ

— 日本サッカー審判協会の紹介 —

RAJ栃木県担当 原 崇

皆さん、「日本サッカー審判協会（RAJ）」という団体をご存じでしょうか。RAJは1984年7月に設立されました。設立から38年、昨年2022年12月には、JFAの関連団体として加盟することが認められました。RAJの設立趣意には、JFAとの「緊密な連携のもと、自らの努力で審判の地位、資質の一層の向上を図るとともに、“審判員相互の連絡協同を密にして”、日本サッカー発展のために寄与する」があります。JFA加盟の関連団体になることで、さらにその趣意に沿って、活動できる環境が整備されました。

現在、栃木県には119名の方が会員として活動されており、都道府県別では全国1位の会員数です。4級審判資格を取りたての方から現役のJリーグ担当審判員まで、幅広い会員が在籍しています。私たち栃木県の会員は、地元地域をベースとして活動し、それぞれの立場から審判の地位、資質の向上や、家族も含めて審判員相互の親睦を図っています。時々、RAJの活動に目を向けていただけると幸いです。

審判資格を取ったけど・・・
どうやって上級に上がるのだろう？
審判仲間や情報が欲しい！

まずはRAJのホームページをご覧ください。
(URL) <https://www.raj.or.jp/>
審判仲間として、共にスキルアップを目指しましょう！





「チャレンジ」 ～U20審判員研修に参加して～

大森 宗吾

この度、私は2022年度U20審判員研修会に参加させていただきました。この研修会は11月24日から27日までの4日間で開催したナショナルトレセンU14/U13地域対抗戦において20歳以下の審判員を対象とした研修であり、全国9地域から推薦を受けた18名の審判員が参加しました。今回の試合はフルピッチを1人制審判で担当しました。

『「チャレンジ」をする機会だ、この3泊4日は非日常である。』JFAのRDOである高橋氏から頂いた言葉でスタートしたU20審判員研修でした。私は、レフェリーは失敗をしてはいけないという思いが強く、自分の改善点が分かっているながらも、失敗を恐れ変化することをためらってしまうこと

があります。しかしながらこの言葉を聞き、私はこの機会を無駄にしないよう有意義な時間にしようと決心しました。

2日目から本格的に試合が始まりましたが、私が最初に主審を務めたのは、東北対中国でした。最初は幅をとったポジショニングを意識していましたが、どうしてもカウンターで争点と遠くなってしまい、事象を正しく見ることができない場面が複数出てしまい、私の課題となりました。その一方で、インストラクターの方からのご指導では、シグナルがとてもきれいだと、お褒めの言葉もいただきました。栃木は「シグナル日本一」を目指していると栃木の先輩審判員から聞いており、いつも意識している成果だと思えます。

3日目は、北海道対JFAアカデミー福島、そして中国対九州の主審を務めました。前日の反省から幅をとったポジショニングをとりつつ、次への展開を頭に入れながらポジションをとることを意識しました。その結果、カウンターの場面をうまく想定することができ、自分のアドバンテージから得点できたこともあったので良かったです。その一方で、予測を自分の中で決めつけてしまい、自分の予測とは違ったほうへ試合が進められると、良い位置でみることはできませんでした。この点について、インストラクターの方から、予測はしても決めつけはしないこと、というアドバイスをいただきました。

最終日は3位決定戦の東海対関西の主審を務めることができました。両チーム疲労もあったせいかわりに、守備の間延びがみられ、お互い縦に早い攻撃が展開されました。したがって審判員としても動きの多い試合になりました。攻撃側がどのような攻撃をするのかを予測していましたが、守備側の動きからも、試合の展開を予測することができる、とインストラクターの方からのアドバイスをいただきました。

この3泊4日は初日の高橋氏の言葉の通り、非日常になりました。私はサッカーがとても大好きで、生きていくうえで欠かせないものであります。私は審判員としての立場でサッカーの魅力を伝えていける審判員になり、サッカーに生涯かかわっていければなと思っています。

最後になりますが、多くのチャレンジをして、多くの失敗をし、多くの学びを得ることができました。この研修会に参加させていただくにあたり、鈴木武明委員長をはじめ、たくさんの方のおかげで参加できたことをとても感謝しています。ありがとうございます。



前段右から4番目が筆者

栃木に移籍してきて

サッカー2級審判員 山崎 匠悟

2022年4月に、栃木県へ移籍しました、山崎匠悟です。前所属は、青森県です。

私の審判活動についてですが、中学2年の冬に3級を取得し、高校2年の秋に2級を受験し、合格しました。そして、大学進学を機に、所属を栃木県へと変更して活動しています。現在は、大学のサッカー部にも所属し、選手としてプレーも継続しつつ、審判活動に取り組んでいます。

栃木での活動は、とても充実していると感じています。県内の審判割当も担当させていただいたり、審判トレセンをはじめとする多くの研修会に参加させていただいています。移籍初年度ということで、思うように活動できないことも覚悟していましたが、みなさまのお力添えのもと、審判員として、多くの経験、学びを得ることができました。特に国体運営に審判員として携わらせていただけたことは、私自身の活動の中でも大きな喜びとなりました。この場をお借りして、お礼申し上げます。ありがとうございました。

今でこそ充実していると感じられていますが、年度当初は、不安や戸惑いを感じることも多くありました。大学生となり、自分自身の責任が大きくなった中での活動は、辛かったり、苦しかったりすることもありました。しかし、私を支えてくださった審判仲間や審判指導者のみなさまに本当に感謝しております。くだらない悩みや相談に付き合っただけだったり、定期的連絡をいただいたり、私のことを気にかけていただき、本当にありがとうございます。みなさまの温かさがあつ

たからこそ乗り越えることができた1年でした。栃木のみなさまと出会えて本当に良かったと心から感じております。こんなにも素晴らしい環境で活動させていただいているので、私からも何か「恩返し」ができればと考えています。1級昇級、そして栃木にいる以上はW杯主審を目標に日々、活動し、「自分自身が成長した姿」を見せることが最大の恩返しではないかと考えています。

まだまだ、未熟な点ばかりですが、審判員としての成長は私にとっての最大の目標です。安心して試合を任せていただけるよう、日々の積み重ねを大切にしていきます。

今後ともよろしく願いたします。



左から2番目が筆者

2級審判員を目指して

サッカー3級審判員 坂本 旭

私は現在、白鷗大学サッカー部に所属しながら、栃木県社会人リーグや関東大学サッカーリーグNorteを中心に、審判員としての活動を行っています。2022年度に行われました第1回関東大学サッカーリーグNorteでは、副審として数試合担当させて頂き、ベストレフェリー賞を受賞致しました。選出して下さった大会運営・学生幹事の皆様に多大な感謝を申し上げると共に、今後の審判活動においても身が引き締まる思いです。

さて、私が大学に入学してから3年が経ちます。審判員としての活動を継続していくにあたって、1種ならではのスピード感あふれるゲーム展開の中で、「公正・公平に、正しい判断をしながらジャッジ(マネジメント)していく」という、私が考える審判員としての必須のスキルを、より高いレ

ベルに高めていく必要があると日々感じています。審判員としてゲームを担当する際、審判員にはそのゲームに対して責任を持たなければならないのは当たり前であると思います。正しい判断を行なっていくためのポジショニングを意識的に行なっていくことや、副審・第4の審判員との審判団でのコミュニケーションを図っていくこと、選手の安全を確保するジャッジ、マネジメントなど、高いレベルを目指すからこそ審判における基礎技術の向上が非常に重要となってくると考えています。

更に、2級審判員への昇級を目指していくにあたって、審判員としてのスキルを総合的に向上させていく必要があると感じています。具体的には、「事象を適切な距離・ポジショニングで見る」ということと、それを実行していくための「予測」です。サッカーにおいて、審判員は事象を見ることができなければジャッジすることはできません。選手の立場から考えれば、事象が見えていない審判員はフラストレーションを溜める要因にもつながり、パフォーマンスの低下やラフプレーの危険性が高まることが想像できます。このようなことを防ぐためにも、事象を適切な距離とポジショニングでしっかりと見て、競技規則に則った判定を下すことが重要であると考えています。また、これを実行していくためにゲーム展開や選手の動きなどから、次のプレーを予測してポジションを修正していくことが重要であると考えています。ロングキックや攻守の切り替わりのタイミングを素早く判断し、それを基にした的確な予測をしているように努めていきます。

私がサッカー審判資格を新規取得して、9年という年月が経ちました。中学生だった当時を思い返してみると、競技規則の理解も乏しく、判定における判断面や体力面においても、審判員として活動していくにあたって足りないものしかなかったと痛感しています。そして現在、2級審判員への昇級を目指していく為に、自らが経験してきたことを活かしながら、さまざまなご指導を頂いていきたいと考えています。サッカーという素晴らしいスポーツがより発展し、私も微力ながらそれに貢献できるよう、日々精進していきます。

グラスルーツ委員会

グラスルーツ委員長 挨拶

委員長 手塚 貴子



新型コロナウイルス感染症が少しずつ落ち着いてきた中、2022年度のグラスルーツ委員会事業もある程度、予定していた事業は実施できました。

2022年度は「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」が開催され、県民がスポーツを観る・スポーツに触れる機会が増え、特に、本委員会女子部会ではサッカー少年女子カテゴリーが初開催となるため、国体レガシープログラムを積極的に実施しました。2023年度も引き続き国体レガシープログラムを実施したいと考えています。多世代でサッカーを楽しめるような内容（ウォーキングフットボール等）で、まずは気軽に誰でもサッカーを始められる環境づくりを進めていきたいと思っています。

また、本委員会が発足して組織改革元年でしたが、本来の目的（各種別間の連携を取って県内のサッカーの普及を考えること）を達成していくことのスタートラインにまだまだ立てていないことを実感しています。委員長として反省するばかりですが、新しい組織としてスタートした以上、各種別、各委員会及び各連盟の方々と一緒になって県内のサッカーの普及を考え、土台を大きくし、そこから競技人口や関わる人を増やしていく方法を探っていきたくと思っています。結果は直ぐにでないとは思いつつ、組織内の微調整は迅速に対応しながら事業を進めていきたいと思っています。

県協会関係者の皆様、各種別、各委員会及び各連盟の皆様、県協会所属チーム関係者の皆様と一緒に、サッカーファミリーを増やしていきたいと思っておりますので、今後ともご協力の程、よろしくお願いいたします。



2022年度グラスルーツ委員会 女子普及活動関連

女子部会長 大森美幸

2022年度「いちご一会とちぎ国体／少年女子」が開催され、栃木県の女子サッカーに変化がある事を期待しています。

女子部会では、多くの種別の女性(女の子)の普及と継続に力を入れて、2022年度も様々な事業を開催いたしました。新型コロナウイルスの影響も少しではありますが落ち着きを感じながら、開催出来た事に喜びを感じております。

<2022年度後期の活動報告>

◆ワンデーサッカークリニック①レディースエイト

開催日：令和4年11月6日（日）

会場：那須塩原市

「エムズスタイルフィールド三島」

参加者：中学生～大人女子

内容：6人制スモールサイドゲーム



◆JFAガールズサッカーフェスティバル2022栃木 「女子グラスルーツフェスティバル」

開催日：令和4年11月3日（木・祝）

会場：宇都宮市

「河内総合運動公園陸上競技場」

（共催／河内運動公園指定管理者オーエンス）

参加者：未登録者女子小学1年生～4年生（親子）

内容：親子フェスティバル



◆ワンデーサッカークリニック②

中学生女子フェスティバル

開催日：令和4年11月20日（日）

会場：那須塩原市「NASU夢フィールド」

参加者：3種登録女子

内容：3種所属女子選手の交流戦



◆JFAガールズサッカーフェスティバル 「U-12女子地区交流戦」

開催日：令和4年11月27日（日）

会場：矢板市「リアンビレッジ矢板」

参加者：4種登録女子

内容：地区交流戦



◆国体レガシープログラム

「ウォーキングフットボール交流戦」

開催日：令和4年11月27日（日）

会場：矢板市「リアンビレッジ矢板」

参加者：那須塩原市・矢板市の国体実行委員会関係者及び市職員の皆様

内容：ウォーキングフットボール交流戦



◆JFA女子サッカーデー

開催日：令和5年3月5日 日曜日

会場：カンセキスタジアムとちぎ

参加者：小学生～大人女子

内容：①U12女子県トレセン・地区トレセン合同練習会

②3種所属中学生女子交流戦

③女子連盟所属チーム対象8人制交流戦

④キッズリーダー養成講習会女子コース

※終日フードドライブ実施



◆ワンデーサッカークリニック③レディースエイト

開催日：令和5年2月5日（日）

会場：宇都宮市

「河内総合運動公園多目的広場」

参加者：中学生～大人女子

内容：8人制交流戦



NPO法人たかはら那須スポーツクラブ 飯山 勝一
 小口 啓夫 小口 竜太郎
 菅俣 倫吉 株式会社石崎測量設計事務所

記録広報委員会のお知らせ

<広報誌「SOCCER TOCHIGI」発行のデジタル化について>

（公社）栃木県サッカー協会の広報誌として、第1号を昭和52（1977）年に発行いたしました。以来、年間2回の発行において会員及び運動施設管理者等の関係者に協会の動向、各種委員会・連盟の活動状況、大会記録などの情報を提供してきました。

前年度で節目となる第100号を発行し歴史の深さと重みを感じております。今回で第102号の発行となりますが、第102号からはデジタル化（デジタルブック）に移行し、県サッカー協会のホームページで公開することにいたします。

これにより経費削減を図る目的もありますが、今まで以上に多くの方に目にさせていただく機会を増やし、県サッカーの発展に役立てたいと思っております。

今後とも引き続き宜しくお願いいたします。

人と自然が調和した街づくり目指す



鈴運メンテック株式会社



- 一般廃棄物の収集運搬
- 産業廃棄物の収集運搬
- 重機・一般貨物の運搬
- 倉庫の賃貸及び保管管理
- 高速道路の維持管理

〒320-0857
 宇都宮市鶴田2丁目2番10号
 TEL 028-648-6241(代)
 FAX 028-648-8318
<http://www.suzuun.co.jp>

オフィシャルサプライヤー
ミズノ株式会社

- 発行 公益社団法人 栃木県サッカー協会
- 編集 公益社団法人 栃木県サッカー協会 記録広報委員会
- 発行責任者 星野務 村上富士夫
- 印刷所 円印刷株式会社